

MIYU



GUIDE

2026

宮城大学 大学案内 2026

Contents

MIYU TOPICS

Mission, Philosophy, History

President's Message

Freshman Core Classes

Department Studies

School of Nursing

Nursing

School of Project Design

Business Planning

Regional Sciences

Value-Creating Design

School of Food Industrial Sciences

Integrative Studies of Plant
and Animal Production

Food Science and Business

Global Exchange

Graduate School

MIYU CAMPUSES

OPEN CAMPUS 2025

Routes to Campuses



未来を左右する地球規模の課題に各国が国レベルで向き合う中、その解決の起点となる地域での取り組みにこそ注目が集まっています。宮城大学では開学以来、高度な実学を理念に実践的な教育を通してグローバルな視点で社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組んできました。看護、事業構想、食産業それぞれの領域における高度な知識と技術、異なる意見を受け入れながら創造的に発展させることのできる豊かな人間性、社会実装まで成し遂げる強い意志と確かな実践力を育むための基礎的、専門的な学びの場と実践の機会、充実した環境を用意しています。激動の中でも揺るぎない信念を持って地域から明るい未来の姿を示し世界に希望をつなぐあなたの挑戦と成長を、宮城大学は全力で応援します。

Contents

03 MYU TOPICS	18 看護学群	47 国際交流・海外ネットワーク
11 建学の精神・大学の理念・沿革	19 看護学類	48 大学院 データ(学生数/入学金・学費・奨学金)
12 学長メッセージ	24 事業構想学群	49 キャンパス紹介
13 フレッシュマンコア	25 事業プランニング学類	50 オープンキャンパス2025・アクセス
17 学群・学類での学び	29 地域創生学類	
	33 価値創造デザイン学類	
	38 食産業学群	
	39 生物生産学類	
	43 フードマネジメント学類	

MYU TOPICS

2024-2025 / MIYAGI UNIVERSITY TOPICS 宮城大学の特色ある学びをご紹介します。



TOPICS 01

デザイン思考を理解し、未来を描く力を育む 宮城大学デザインスタディセンター

社会の未来を構想し、そこに生じる課題の本質を理解し、創造的に解決することができるビジョンを持った人材が求められています。デザインスタディセンターは宮城大学を中心として、学生や大学関係者・地域の事業者・自治体が集い、共に学び、プロジェクトを展開する共創的な教育研究プラットフォームです。2024年度は、仙台市の大町エリアに隠れている面白さや可能性を再発見する街歩きワークショップや、かつて仙台市に存在してい

た日本のプロダクトデザインのルーツ「商工省工芸指導所」の製作物に触れ、デザインの未来を深く考えるワークショップの他、グッドデザイン賞を運営している公益財団法人日本デザイン振興会・2024年度グッドデザイン大賞を受賞した株式会社ジャクエツのゲスト2名を招いたレクチャーなどを実施。これら宮城大学デザインスタディセンターの取り組みは、新しい学びの場として評価を受け、2024年度グッドデザイン賞を受賞しました。

TOPICS 02

多様な学びを地域社会に DX教材の開発・活用と リスキリング教育の推進

宮城大学では、DX教材の開発とそれらを活用したリスキリング教育を展開しています。看護学群では臨地実習を補完する仮想地域「MYU-TOWN」や、360°コンテンツを用いた教材を開発。地域特性や社会資源を活かして様々な地域に対応する「みやぎテレナース育成プログラム」に活用しています。事業構想学群では、VRコンテンツやドローン、SONYのIoTツール MESHを活用した学習プログラムを開発。宮城県内の中小企業等で働く社会人に向けた「Downstream から学ぶDX」や、高校生に向けた「未来志向型アントレプレナーシップ教育プログラム」に活用し、多様な学びの環境を提供しています。



MYU TOPICS

TOPICS 03

東北の教育機関で初！ 宮城大学キャンパスが 自然共生サイトに認定

宮城大学の和・太白キャンパス及び坪沼農場が、2024年 - 環境省「自然共生サイト：民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」に認定されました。森林の状況に応じた適切な管理、生物多様性の情報を教育に活用すること、四季を通じた菜園植物の移り変わりや収穫の喜びを学生実習のみならず地域コミュニティの場として活用されていることが評価されています。また、小沢研究室学生の研究調査においてキャンパスの年間二酸化炭素排出量・固定量を算出し解析した結果、宮城大学全体ではキャンパスの森林によるネガティブエミッションにより、カーボンニュートラルが達成されていることが示されています。



TOPICS 04

WOW× 宮城大学「娘すずめ。」
仙台ゆかりの「すずめ踊り」を
モーションキャプチャー

青葉山公園仙臺緑彩館に、仙台すずめ踊りの活気をいつでも体感できる新たな体験型観光コンテンツ「祝彩緑彩パチャルすずめ祭り」が登場。利用者が作成した踊り手たちがモニター上で踊りだし、まるで祭りに参加しているような体験ができるコンテンツです。本学「娘すずめ。」サークルがモーションキャプチャーのモデルとして参加している他、モーションキャプチャーの技術協力・監修に事業構想学群薄井洋子助教が参加しています。制作の中心となったのは、仙台に拠点を置き「伝統文化とビジュアルデザインの可能性」を追求する活動を多数展開するWOW、展示什器の設計は本学卒業生であり建築家として活躍する後藤充裕さんが行いました。



TOPICS 05

日本の伝統・伝承テーマに
3つの取り組みを出展
サイエンス・デイ 2024

東北最大級の子ども向けの科学イベント、学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ。2024年度は、事業構想学群から土岐謙次教授・薄井洋子助教が、食産業学群から金内誠教授がそれぞれの取り組みを出展。土岐教授による「乾漆」の技術を体験するブローチづくり、薄井助教による町の文化財である「磨崖仏」をVRで鑑賞する体験ブース、金内教授による麹菌を利用した味噌玉づくり体験は、日本の伝統・伝承をテーマとした統一感のあるプログラムとして参加者・主催者から高い評価を受け、サイエンス・デリアワード各賞を受賞した他、うち2つのプログラムがサイエンスデイオブザイヤー 2024を受賞しました。



TOPICS 06

AKOMEYA TOKYO× 宮城大学
宮城県の地域資源を活用する
14の商品を学生たちが販売

お米を中心とした食品や食雑貨を展開するライフスタイルショップAKOMEYA TOKYOとの産学連携プロジェクトとして、食品マーケティング演習を履修する食産業学群3年生が宮城県の地域資源を活用した14の商品を企画提案。一般社団法人カイトク『ほや味噌』や、岡田食品工業『岡田の仙台長なす漬』、阿部善商店『塩釜おでん』、『仙臺塩おでん』など14の商品を仙台パルコで販売しました。学生たちは、地域資源の活用や食文化伝承などの「社会的価値の実現を目指す」といったAKOMEYA TOKYOのブランドコンセプトを学び、座学のみでは得られない店頭マーケティングの実践も学ぶ機会となりました。



MYU TOPICS

TOPICS 07

泉パークタウン「寺岡 Knots」で
多世代交流をテーマとした参加型まちづくり

三菱地所・泉パークタウンサービスと学生たちが連携し、交流拠点施設「寺岡 Knots」を中心に多世代交流をテーマとした企画を多数展開しています。2024年度は、親子で楽しめる「IZUMIファミリーハロウィンフェス」や多世代交流イベント「クリスマスフェスタ」を実施。高齢者を対象とした「学生と学ぶ!! スマホ教室 LINEの使い方講座」も同時に開催し、子どもから高齢者まで家族が交流する場を作りました。



TOPICS 08

富谷市を実証フィールドとした
とみやつなぎつなぐれみちのく協議会

2024年に発足した「とみやつなぎつなぐれみちのく協議会」は、宮城大学・富谷市・アクセンチュア株式会社・東北大学・株式会社ミヤックスにアドバイザーとして宮城県を迎え、産業振興・人材育成・地域活性化・定住人口増加等につながる取り組みを実施する協議会です。宮城大学は、富谷市との連携協定のもと展開した数多くの活動を基盤に、住環境整備の支援や教育領域で幅広いプロジェクトに取り組みます。



TOPICS 09

宮城大学史上初！「でるコン 2024」
学生向けビジネスアイデアコンテスト開催

社会が大きく変革する今、学生たちには大きなチャンス・可能性が待っています。2024年度は、開学以来初めてとなる宮城大学生向けアイデアコンテスト「でるコン（出る杭になれコンテスト）」を実施しました。学生たちの「もっとこうだったらいいな」「こんなのがあったらいいのに」というアイデアを、「ごりっと部門：事業化を目指す総合部門」、「ふわっと部門：事業化までは至らないが、構想を形にしてみるアイデア型」部門として募集。37件のアイデアが集まり、最終審査では8組がプレゼンテーションを実施。受賞者はビジネスプラン実現のための活動費を獲得しました。



TOPICS 10

塩竈市の桂島で、海の家を復活させたい！
学生企画「アイランドフェス in 桂島」実施

事業構想学群の飯野あゆ美さんは、祖母の住む宮城県塩竈市の桂島に幼少期から訪れていました。高校3年の夏に訪れた際、震災後の復興工事が終わり新たな島の風景に感動する一方で、祖母から「島が綺麗になっても、もう人は来ない」と言う言葉を聞きました。小さい頃からの大切な思い出が詰まっている島に再び活気を取り戻したいという想いから、学生団体 Brush のプロジェクトとしてクラウドファンディングで支援を募集。地域住民とともに海の家を4年ぶりに復活させる「アイランドフェス in 桂島」を実現しました。学生団体 Brush は新たに32名が加入し、現在も新しい取り組みを続けています。



TOPICS 11

学食の食品残渣を堆肥化、農業体験を通じて
地域とともに食料生産の課題を考える

食産業学群の宮川咲良さんから6名の学生たちが、公益財団法人イオンワンパーセントクラブと連携した「宮城大学チアーズ農園」において、大学のカフェテリアから出る食品残渣（食べ残しや廃棄された食品由来のごみ）を堆肥化し、循環型農法で野菜を栽培する取り組みを小中学生たちとともに体験するプログラムを展開。宮川さんらは、これらの成果を「食品残渣由来の肥料を活用した玉ねぎの環境負荷低減栽培の取り組み～次世代を担う子どもたちに伝える持続可能な循環型食料生産～」として発表し、農林水産省「第1回みどり戦略学生チャレンジ」東北ブロックで最優秀賞を受賞しました。



TOPICS 12

東北の美味しい青果を海外へ
品質を保持したまま海上輸送を
実現する流通技術の開発

日本の高品質な青果物を大量・低コストで海外に届ける手段として、海上輸送が注目されています。海上輸送は東南アジア向けの輸出でも2～3週間程度の品質保持が必要となることから、その技術確立が課題です。青果物の保蔵・流通の研究に取り組む食産業学群兼田朋子准教授による技術指導のもと、仙台水産・仙台あおば青果・ジェイエイトんどうフーズ・宮城県等が協働し、宮城県産・山形県産の蔵王ナシやシャインマスカット、ラ・フランスなどをコンテナ満載に「多品目混載」し、香港に向けて海上輸送する実証試験を行い、無事現地での販売にこぎつけました。この産学官の取り組みは、東北の青果物輸出を海上輸送にシフトしていく可能性を生み出しています。



TOPICS 13

FUJISAKI・JF みやぎ志津川支所 × 宮城大学
南三陸銀鮭のはらこ飯「あさやけ」を開発

食品機能学・水産利用学を専門とする西川正純教授指導のもと、食産業学群の有志学生らと藤崎・JF みやぎ志津川支所が共同開発した「はらこ飯」が、2024年の藤崎冬のギフトとして販売されました。学生たちは、日本の銀鮭養殖発祥の地である南三陸町における素材の特性を活かしレシピ開発に挑戦。銀鮭漁で見える美しい光景にちなんで「あさやけ」というおいしいはらこ飯ができました。



TOPICS 14

PAPABUBBLE × MYU 「MYU CANDY 30g」
食産業学群の学生と広報チームで企画・開発

食産業学群の学びのベースとなる科目「食産業学基礎演習」で、食産業学群滝口沙也加准教授が本学広報チームとともに「宮城大学の公式ノベルティを考える」課題を考案。全国に愛されるスイーツブランド「PAPABUBBLE」と連携し「宮城大学が様々な方々や地域と交流し、地域に愛着を持っていること」「緑豊かなキャンパスで美しい四季が感じられること」などをテーマに「MYU CANDY」を開発しました。

TOPICS 15

地域の現場に実際に触れながら
課題解決を通じた学びを展開
コミュニティ・プランナープログラム

地域の現場に実際に触れて課題解決を提案することで、地域本来の良さを活かしたコミュニティづくりを学ぶコミュニティ・プランナープログラム。2024年度は「南くりこま高原一迫ゆり園」を対象とした遊休地の活用プロジェクトや「みやぎ蔵王ハーモニー花回廊」のガーデンツーリズムを扱った体験型コンテンツ「花言葉コレクトラリー」を実施した他、七ヶ浜町の魅力を参加者が再認識できるような写真撮影ワークショップ「パシャリ！七ヶ浜」など多数のイベントを展開。このほか関上漁師の後継者不足解消にむけて学生によって制作された冊子「関上水産業の世界を覗いてみよう」は、名取市立関上小中学校に贈呈され、実際に子どもたちに届けられました。



TOPICS 16

坪沼農場でつくられたおいしいお米を
食産業学生たちが仙台市こども食堂に寄付

宮城大学の坪沼農場では、食産業学群の学生の生産実習で水稻栽培などを行っている他、「宮城大学チアーズ農園」や仙台リビング新聞社の「リビングこども大学」などを開催し、次世代を担う子どもたちに向け食・農の啓発活動を展開しています。昨今の米不足を受けて、将来の宮城・日本を担う子ども達に少しでも貢献するため、令和6年度産の精米(2kg×50袋計100kg)を、仙台市のこども食堂へ寄付しました。



TOPICS 17

看護学群名古屋祐子准教授らが行き組む
「宮城こどもホスピスプロジェクト」

「こどもホスピス」は、小児がんや心疾患・重症心身障がいなどの病気がある子どもとその家族がたくさん遊び、学び、友人や家族と宝物のような時間を過ごす場所です。小児看護を専門とする看護学群の名古屋祐子准教授は、東北にはまだ設置されていない「こどもホスピス」が宮城に創られる日が来るように「宮城こどもホスピスプロジェクト」を立ち上げ、仮施設の運営と普及啓発や設立資金の確保に取り組んでいます。



TOPICS 18

「乾漆」を最新技術で次代へ
世界初の漆を構造とした建築物
「URUSHI Shell」

漆器や伝統建築、武士の甲冑や華麗な工芸品などに「漆」は広く用いられてきました。事業構想学群の土岐謙次教授は、この「漆」の硬化する性質を活かした造形技法「乾漆(かんしつ)」に着目、東京藝術大学建築科金田充弘教授とともに構造的・デザインの可能性を探究しています。2024年、韓国・光州ビエンナーレ財団主催「第5回光州フォーリー」の一環として、伊東豊雄建築設計事務所・東京藝術大学・宮城大学・ARUPが共同で、「漆」を建築の構造材として利用した建築「URUSHI Shell」を実現。2年間にわたって試行錯誤を重ね、素材研究・施工方法ともゼロから一つひとつ組み立てる世界で初の実験的な取り組みです。



MYU TOPICS

TOPICS 19

国際看護の場で活躍できる人材を
看護学群のナースングスタディツアー

看護学群の国際看護プログラムは、国際協力や多様な文化的背景を持つ人々に対する臨床の現場で看護実践を行うための基礎的能力を身につけます。3年次の科目「実践看護英語演習」では英語圏の保健医療・看護の現状とその文化・歴史的背景を理解するため、事前研修と海外渡航によるナースングスタディツアーを実施。2023年度はシドニー看護研修、2024年度はニュージーランド看護研修を実施しました。



TOPICS 20

人に寄りそう「習慣化のデザイン」
生成 AI やデジタル技術でサポート

事業構想学群太田賢教授の研究室では、デジタル技術を活用した「一人ひとりに寄り添う習慣化デザイン」に取り組んでいます。絵本の検索をサポートし生成 AI を活用して読み聞かせのアドバイスをを行う「読み聞かせナビ」や、国語が苦手な生徒が作者の意図を読み取りやすく支援する「その世界に入るボタンがある小説」のアイデアが、生成 AI や地域課題の解決を目的としたビジネスコンテスト等で高く評価されています。



ホスピタリティとアメニティの究明と実現

Mission

建学の精神

快い生活環境（アメニティ）に身を置き、
心温まる人間関係（ホスピタリティ）に
囲まれていることは成熟社会に生きる万人の願いであり、
このような地域社会を実現させるために
「ホスピタリティとアメニティの究明と実現」を目指す。

この建学の精神に則り、宮城大学では、社会の要請に応えるために
関連するあらゆる学問や技術の成果を総合化する「高度な実学」
に基づく教育研究を推進することとし、次のように大学の理念を定める。

Philosophy

大学の理念

高度な実学に基づき、
豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、
グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、
学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

豊かな人間性	先人たちの考えや相手の価値観を尊重し、 知性と感性を涵養することで自らの人間性を磨いていく。
高度な専門性	関連するあらゆる学問や技術に関心を寄せ、自らの専門性を高め、 時々刻々と変化する社会にしなやかに、かつ、柔軟に対応できる力を身につける。
確かな実践力	地域に根ざし、グローバルな視点で自ら主体的に考え、 強い意志を持って実践していく。

沿革 History

平成 5 年	4 月	宮城県企画部県立大学設置準備室設置
	6 月	宮城大学創設準備委員会設置
	7 月	宮城県総合計画の戦略的プロジェクトの一つとして、県立宮城大学の整備を明示
平成 8 年	12 月	宮城大学条例制定／宮城大学設置認可
平成 9 年	4 月	宮城大学開学〔看護学部・事業構想学部〕
平成 13 年	4 月	宮城大学大学院（修士課程）設置〔看護学研究科・事業構想学研究科〕 宮城県農業短期大学 4 年制化基本構想検討委員会を設置 （宮城県農業短期大学創立は昭和 27 年）
平成 17 年	4 月	宮城大学食産業学部設置
平成 20 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔事業構想学研究科〕
平成 21 年	4 月	公立大学法人宮城大学設立 宮城大学大学院（修士課程）設置〔食産業学研究科〕
平成 22 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔看護学研究科〕
平成 25 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔食産業学研究科〕
平成 29 年	4 月	宮城大学学部改組により学群・学類制へ移行
令和 2 年	6 月	大和キャンパスにデザイン研究棟を新築

変革する社会を生き抜く 実学人材を創る宮城大学

宮城大学は、1997 年の開学以来、高度な実学を尊重し、実践的な教育を行うことを信条に、社会環境の変化に迅速に対応し、社会での即戦力として通用する人材の育成に取り組んでいる大学です。なかでも本学の理念の一つである「グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材」の育成は、地方創生が日本再生のキーとなっている現在、ますます重要なミッションとなっています。その背景としては、地球温暖化やパンデミックなど地球規模での課題に直面する今日、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブなどをはじめとする SDGs の推進、これらを効率的に進める上で欠かせないデジタルトランスフォーメーション（DX）やグリーントランスフォーメーション（GX）による持続可能でレジリエントな社会の構築が、喫緊の課題となっていることがあげられます。これら課題の解決には、国レベルのみで成し遂げられるわけではなく、地域での取り組みが起点になります。すなわち世界各地で展開されているスマートシティに見られるように、限られた地域内での取り組みを拡大していくこと重要なのです。地方創生、そして地域からの発信であり、それを担える人材が今まさに求められています。宮城大学は、地域社会の発展と社会イノベーションにとって重要な 3 つの専門領域、すなわち事業や地域社会、さらにものごくり・ことづくりをデザインし構築する事業構想学群、食材の生産から加工、さらに供給に至る食システム全体を考えて食の

未来を開拓する食産業学群、さらに地域でのヒューマンケアに関わる看護学群を擁しています。これら領域での社会的な課題と密接に関連した研究や社会との共創、そしてこれら実学に基づく人材育成を行っています。大学での学びの土台となる基盤教育は、社会からの要請の変化を捉えて、AI やデータサイエンスへの対応力を高め、また、地域に根づいた人材育成を強化するカリキュラムを導入しています。食産業学群では、第一次産業を再び基幹産業として飛躍させる人材となるよう、スマート化、食農ビジネス、ゲノム育種など学際的で柔軟な学びができる新しいプログラムを導入しています。事業構想学群では、新たな仕事、事業をデザインし開拓していくアントレプレナーシップ教育に力を入れています。看護学群では、地域特性に根差した看護を展開できる人材育成のために、バーチャル空間を活用した「MYU-TOWN」を開発し、教育に展開しています。また過疎が進む超高齢社会で有用となる IoT を活用したテレナーシング（遠隔看護）に関する教育も導入しています。宮城大学は、地域課題ならびにグローバルな社会課題を解決する研究と社会連携を推進し、これらに基づいた教育により地方創生と未来社会の構築を先導しうる人材を育成します。

学長 佐々木啓一



1・2年次で学ぶ基盤教育の主要な科目群

フレッシュマンコア

[全学群共通：必修]



「フレッシュマンコア」科目で大学での学びの基礎を築きます
強固な知的基盤の上に専門の学修を積み上げましょう！

技法知

リテラシー

全ての基盤となる
言語スキル、数量スキル、情報スキルを
身につけます。

学問知

知識×考え方

基本的なトレーニングを通して
思考力を高めます。

実践知

実践力

「自己理解」「他者理解」を
深めながら実践力を養います。

フレッシュマンコアとは、1・2年次で学ぶ基盤教育の主要な科目群であり、
全学共通の基盤教育必修科目群です。

豊かな人生を送る上で必要な「技法知」「学問知」「実践知」を養います。

専門分野への学びに繋げていくだけに留まらず、その先を見据え、

自分の未来を切り拓いていくための指針を、

フレッシュマンコアを中核とする基盤教育を通して身につけていきます。

不測の時代を生きるための基盤教育

私たちを取り巻く世界は、これまでより変動的で、不確実で、複雑で、曖昧になりつつあります。将来を予見することが難しい状況において、私たち一人ひとりが自分で考え、人生を切り拓いていく必要があります。全学生に向けて開講される基盤教育科目は「技法知」「学問知」「実践知」を養う基礎となるフレッシュマンコア科目に加え、芸術・人文学、人間科学、社会科学、グローバルコミュニケーション、自然科学などの科目群があります。かつて一般教養と呼ばれたこれらの科目は、リベラルアーツとも呼ばれ「人や社会を自由にするための学問」と言われています。リベラルアーツは、何かを暗記したり、正解を導いたりするものではありません。固定観念や周囲の価値観にとらわれてしまうことなく自由な発想で、人や社会をより豊かにするためにどうすればよいか、自ら「問い」を立て、他者と協働しながら正解のない問いを考え続けることです。新しいカリキュラムでは、リベラルアーツ科目の拡充に加え、数理・データサイエンスの強化、学群専門科目との接続性の強化、国際感覚を養う科目の新設など、本学の特色を活かした基盤教育の実現を目指しています。また、「地域フィールドワーク」「学外研修」など、経験や実践を通じて学べるカリキュラムが1年次から編成されています。入学当初から社会に出て、社会で生きる人々から学ぶことの重要性を理解できれば、専門学群での学びにおいても、リベラルアーツ教育で培った考える力が発揮されることでしょう。



基盤教育群長 川島滋和教授

幅広く、そして偏りなく、多様な学びを積み重ねていきます

4年間は長いようで、あっという間に過ぎてしまいます。4年後の成長した自分をイメージして大学生活をスタートさせることが重要です。受験勉強とは違う大学での学びの作法を身につけることと、自分と社会を見つめることで自分の将来に見通しを持ち、自身の大学での学びの意義づけを自ら行う必要があります。そのためにフレッシュマンコアがあります。



スタートアップセミナー I・II

宮城大学での学びの基礎を確立する導入科目です。大学の学びに必要な知見やスキルを講義形式で学び、学群ごとの少人数ゼミ形式で演習やグループワークを行い、実践的に身につけます。また、卒業後にも必要な汎用性の高い知見、態度の涵養とスキルの習得を目指し、自分自身の現在・過去・未来につながるキャリアデザインを考えていきます。



コンピューターリテラシー 情報化社会と技術 基礎統計学 I・(II)

現代社会において、AIやビッグデータを活用する知識やスキルは必須となりつつあります。これらの科目は全学必修科目として、その基礎的な理論や技法を、情報科学やコンピューター工学、統計学といった学術的な視点から学んでいきます。道具としてコンピューターやネットワークを使いこなし、さまざまなデータに対して正しい知識と解析技術をもって妥当な解釈を得る能力を身につけます。



Student Voice

基礎から学んで夢の建築デザインへ一歩ずつ

フレッシュマンコアでは、大学での専門的な学びを豊かにするための基礎を身につけました。スタートアップセミナーでは、少人数クラスでレポート作成やプレゼンテーションの機会があり、先生から一人ひとりへのフィードバックを通じて学びを深められました。2年次からは価値創造デザイン学類に進み、建築を学ぶ予定です。建築デザインでは、背景にある意図や社会的意義を表現する力が重要です。フレッシュマンコアで培った基礎力を活かし、自分のアイデアを視覚的に表現すること、そして他者の意見を取り入れる柔軟性を持ち、より完成度の高い作品の創作に挑戦していきたいと考えています。

鈴木芽生さん(事業構想学群) 神戸市立葺合高校出身



地域フィールドワーク

地域社会について座学を中心に学びつつ、グループ単位のフィールドワークで地域課題の発見とその解決に取り組みます。地域に関する知識やフィールドワーク手法の習得だけでなく、地域社会の将来に対する学生の使命感を涵養し、主体的な学びへと促すことも目的の一つです。

1. 講義

初回講義では、フィールドワークの位置づけや意義を確認し、訪問時の心構えやマナー等のリテラシーを習得します。

2. グループ演習

事前にヒアリングの練習を実施した上で、グループ単位で各訪問先を訪れ、ヒアリングとフィールドワークを実施します。

3. フィールドワーク

グループに分かれて、訪問先の方から地域の特徴や見所を解説していただくなど、地域に関する知識や理解を深めます。

4. グループ演習／発表

フィールドワークの背景、目的、調査結果、分析をまとめた成果物を作成し、学生相互に発表して意見交換を行います。



Student Voice

仲間との学びと地域の声で広がる食への探究心

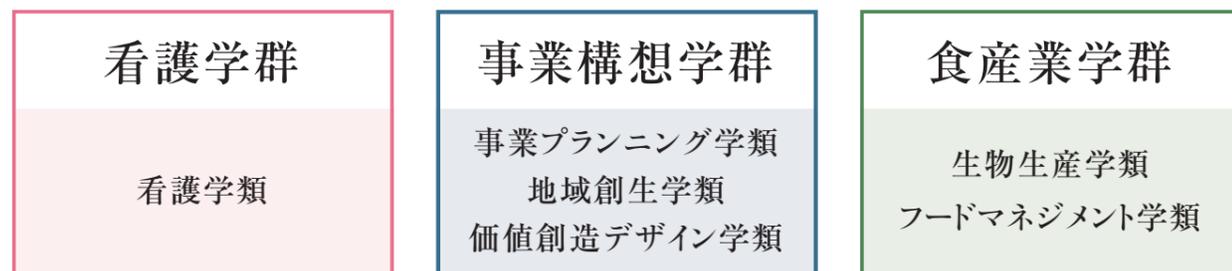
スタートアップセミナーでは、大学生活に必要な知識やスキルを実践的に学びました。グループワークや演習では学生同士で話し合う機会が多く、他の人の意見を交えながら課題に取り組むことの大切さを感じています。地域フィールドワークでは震災の被害を受けた地域を訪れ、その恐ろしさを身にしみて実感しました。地域の方々から興味深いお話を直接聞くことができ、積極性を持つことの大切さも学ぶことができました。2年次からはフードマネジメント学類で、フレッシュマンコアで身につけた基礎力を活かし、専門的な知識や技術の修得に取り組んでいきたいと考えています。

依田尚輝さん(食産業学群) 静岡県立富士東高校出身

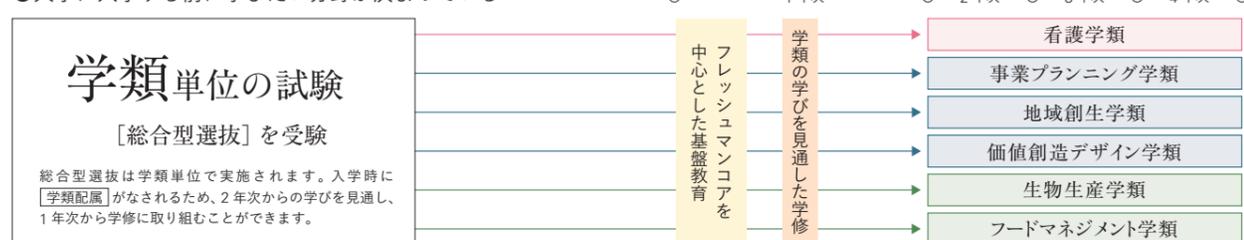
学群・学類での学び

宮城大学では、2017年度入学者より、学群・学類制による新たな教育を展開しています。このことにより、学類の垣根を越えてバリエーション豊かな専門教育が受けられるようになりました。また、入学者の募集単位も「学群単位」「学類単位」の2つを設定しています。

一般選抜と学校推薦型選抜は、「学群単位」の募集となりますので、事業構想学群と食産業学群の学生は、入学後1年間をかけてじっくりと自らが進む専門分野(学類)を選択し、1年次の終わりに所属する学類が決定されます。(看護学群は1学類のため、全員が看護学類で学ぶこととなります。)



●大学に入学する前に学びたい分野が決まっている



●大学に入学してから学ぶ分野を決めたい



※看護学群は1学類のため、全員が看護学類で学ぶこととなります。

学類配属について (一般選抜・学校推薦型選抜で入学された方)

所属学群ごとに、学生一人ひとりが自分としっかり向き合いながら、担当教員と一緒に1年かけて考えていきます。1年次の学修成果(1年次の成績や希望学類に関するレポート、面接等を予定)による選考を行い、学類配属を決定していきます。

オリエンテーション [4月]	学群・学類による4年間の学びを見直し、学類配属にかかるスケジュールや手続き等について説明します。	予備調査・面談 [4~1月]	希望学類についての予備調査を複数回実施します。予備調査の結果等を踏まえ、担当教員と面談を重ねながら、それぞれの興味や関心に合った専門分野(学類)についての理解を深めていきます。
学類配属ガイダンス [10月]	前期試験の成績発表を受けて、学類配属についてのガイダンスを実施します。	希望学類の届出・学類配属の決定 [2~3月]	後期試験の成績発表後、2月から3月にかけて希望学類の届出を行います。選考の結果、最終的な学類は3月末までに決定されます。

※スケジュール等は変更になる場合があります。

看護学群

看護学類 入学定員 95名

入学者に求める能力

- 1) 人や地域社会、看護に関心を持っている人
- 2) 人の喜び、苦しみを分かち合える温かい思いやりを持ち、人との関係を大切にできる人
- 3) 科学的探究心を持ち、主体的かつ柔軟な発想で取り組むことができる人
- 4) 国の内外を問わず、看護学を通して地域社会に貢献しようと思っている人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

看護学群は、生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考とマネジメント能力を持ち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域の人々、多分野・異文化の人々と協働して学際的に活躍できる人材育成を目指しています。

めざせる資格・免許等

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格(選択)
- 養護教諭一種免許状(選択)

卒業時に取得できる資格・免許は、「看護師国家試験受験資格」が全員、保健師教育課程を選択した学生は「保健師国家試験受験資格」、養護教諭教育課程を選択した学生は「養護教諭一種免許状」を取得できます。

看護学は、多くの場ですべての年代の人に関わる学問です

看護は、人が誕生して成長し、社会人として活躍し、年を重ねて死に至るまでの人生すべてに関わります。長い人生を送る中では、生まれ持ったケアの心での援助だけでなく、健康面の専門的な援助も必要です。専門的な援助を深く思考する看護学では、身体の生理反応と、心のはたらき等の知識をもって、家族や社会の中で役割を持つ人を全人的に理解することが不可欠です。また、社会の変化に伴う人の暮らしの変化と健康への影響を見据える洞察力も重要です。

看護学群では、一人ひとりの人を尊重し、その暮らしに関心を向けて援助する知識と技術を身につけます。看護学の学びを生かす場は、多岐にわたります。妊娠出産する女性と新生児へのケア、学校での養護教諭、治療する患者さんへの看護、施設で暮らす高齢者へのケア、疾病予防と健康増進を図る保健活動等です。専門的な看護の基礎知識と技術をしっかりと修得し、さまざまな場での新たな看護を、共に楽しく創っていきましょう。



看護学群 学群長
菅原よしえ 教授

看護学類

看護学の基盤となる知識・技術を身につける「専門基礎科目」と、看護学の専門性を深め、広げる「専門科目」を学年進行に沿って体系的に配置しています。

国際看護プログラム

国際協力の現場や多様な文化的背景を持つ人々への看護臨床で、関係者と協働した看護実践を行えるための基礎的能力の修得を目指しています。4年間を通して、外国語やグローバルな視点での健康課題や文化ケアアプローチについて学びます。海外の大学の看護プログラムや国際援助の実際に関する講義等への参加を通して、国際看護の魅力を実感できます。

災害看護プログラム

災害サイクル各期において支援ができる看護職を目指す学生が、災害看護の基礎知識と技術を身につけるためのプログラムです。学生は学修を進めるにあたり、1年次から学びの振り返りができるポートフォリオを作成しながら、指定された科目を学びます。また、その学びを活かした災害看護関連のボランティア活動を行うことでさらに深い学びが可能です。

看護学群のキャリア支援 学生一人ひとりの自己実現のために、そして看護職として自律した社会人になれるようキャリア支援を行っています。

卒業後の進路

- 病院や施設・地域で働く看護師
- 自治体や企業の保健師
- 幼・小・中・高・特別支援学校の養護教諭
- 大学院や助産師養成校への進学

キャリア教育

4年次までに学生自身が進路決定できるように、1年次からキャリア教育を通して学修します。具体的には、1年次の「スタートアップセミナーⅡ」でキャリアについて学びます。そして、2年次からの「キャリアガイダンス」、「公務員セミナー」、「養護教諭セミナー」などを通して個々の学生が、自らの適性を考え職業の選択ができる能力を育成します。

就職・進学相談

4年次はキャリア開発担当教員により、学生が希望する進路について「個別相談」を計画的に行います。また、キャリア開発室の進路指導員による就職試験に向けたエントリーシート作成支援や面接対策など、きめ細かな支援を行います。

国家試験対策

「看護師」「保健師」の資格は、国家試験の合格をもって得られる資格です。4年次には、定期的な模擬試験とその解説会を行い、学びを定着させます。また、国家試験直前対策として教員による学習会を行うなど、合格に向けてのサポート体制を構築しています。

看護学類



Learn Nursing and Develop Your Future.

人と社会の健康課題を解決に導くために、

科学的思考に基づく看護実践力を身につけ、

看護を思考し自分の将来を切り拓く力を持つ人材を育てる

保健医療福祉の幅広い分野で社会に貢献できる看護職を目指して

看護学は、人間と環境との相互作用から対象となる人を捉え、個人・家族・集団・地域を対象に、人々の健康を包括的に支援するための実践科学です。看護は、すべての人間の尊厳と自律を尊重し、生活の質（QOL）の維持向上をめざします。1年次から、基盤教育科目に加え、講義、演習、実習を通して、看護学を体系的に学修します。また、社会の多様な健康ニーズに応えられるよう、

保健師と養護教諭の養成課程も設けています。さらに、国際看護プログラム、災害看護プログラムを設けており、幅広い視野で看護を学ぶことができるよう環境を整えています。4年間の学修を通して自らの可能性を拓き、保健医療福祉の幅広い分野で社会に貢献できる看護職となるよう、一緒に学んでいきましょう。



看護学群 副学群長
花里陽子教授

看護職として社会で活躍できるように、キャリア形成の基盤を総合的にサポート



看護の基本的な技術を学修するためのナースিং・ラボ



看護学類 吉成綾さん
福島県立橋高校出身

Student Voice

小児看護と災害看護、二つの力で夢を実現へ

宮城大学は整った環境で看護師として必要なスキルを実践的に学ぶことができます。看護の基礎的な技術を学ぶための設備や器具が充実しており、臨床的な技術力や判断力を培うことができます。学内演習では演習ごとに援助計画を立て、手順や留意点を確認しながら実践的に取り組みます。指導教員からのフィードバックで自己の課題を把握し、援助計画を見直すことで問

題解決能力や自己評価力が身につけていきます。先生方と近い距離で丁寧な指導を受けられることは大きな魅力です。私は将来、小児看護に携わりたいと考えています。子どもたちの強さや可能性を引き出し、安心して治療を受けられる環境を提供できる看護師を目指しています。また「災害看護プログラム」で災害時にも臨機応変に対応できる力を身につけたいです。



看護師国家試験合格率 **97.8%**
(第114回: 全国平均 95.9%)

看護師国家試験受験資格

看護師国家試験を受験することができる資格です。国家試験に合格することで看護師として働くことができます。看護師は多様な場における保健・医療の第一線で活躍し、予防、治療、回復過程にある人々、そして病気と共に生きる人々が、その人らしく生活し、生きることを支える役割を担っています。

保健師国家試験合格率 **100%**
(第111回: 全国平均 96.4%)

保健師国家試験受験資格

保健師国家試験を受験することができる資格です。保健師は、家庭訪問や健康相談、健診などの各種保健事業により、一人ひとりの健康生活への支援を行います。また、地域の健康データを分析し、健康課題の解決に向けて、地域の人々と関係機関の人々と協働して健康なまちづくりを目指して活動しています。



Qualifications [資格取得について]

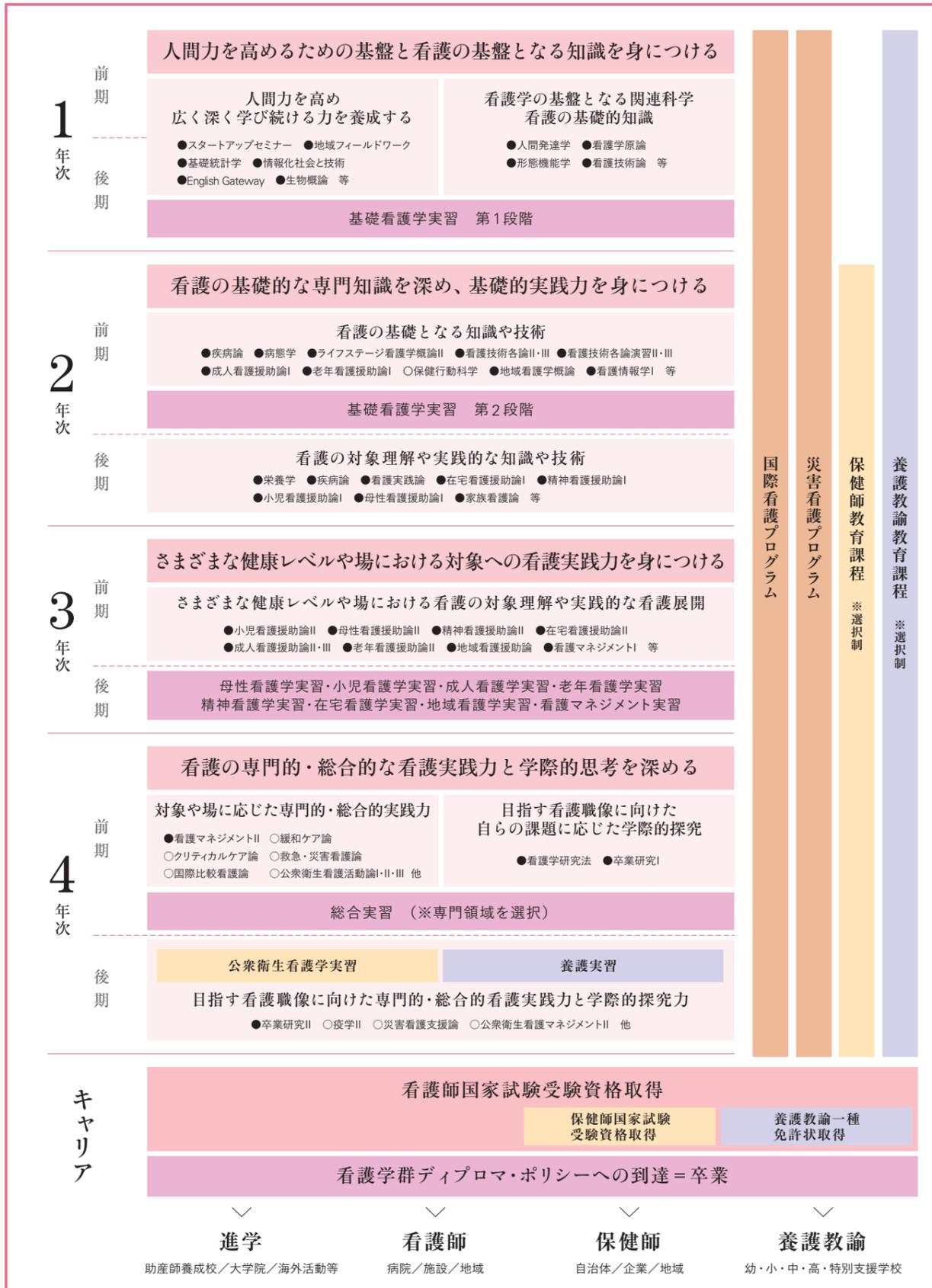
養護教諭一種免許状

幼・小・中・高等学校・特別支援学校において、児童・生徒の心身の健康管理を行うと同時に、学校の保健教育の担い手にもなっています。いわゆる「保健室の先生」です。

※保健師国家試験受験資格と養護教諭一種免許状は選択制です。いずれか一方を選択できます。

看護学類:4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]

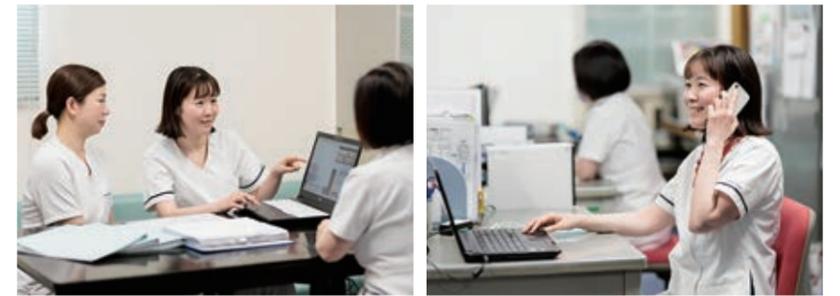


社会で活躍する卒業生

看護の学びを深め
未来の医療を支える

国家公務員共済組合連合会
東北公済病院 看護部
赤井澤緩香さん(2011年3月卒業)

病棟勤務を経て、現在は看護部の教育担当として院内研修の企画や運営、新人看護師へのサポート、職場体験や就職を希望する学生への対応に携わっています。大学在学中の実習で、活気ある病棟の雰囲気や看護師間の良好なチームワークに魅力を感じ、この病院を志望しました。患者さんや同僚などさまざまな人との関わりを通じて気づきを得られ、人間として成長できることにやりがいを感じます。また、若いスタッフが成長していく姿を見られることも大きな喜びです。宮城大学の最大の魅力は、それぞれの分野を専門とする個性豊かな先生方の下で学べることです。授業で得た知識を演習や実習で実践できる環境が、効果的な学びに繋がりました。「看護の対象を理解する」という丁寧な指導は、現在の看護観の基盤となっています。この春からは大学院で学び直し、社会の変化に対応できる看護を追求していきます。



Graduates [卒業生の活躍]

看護学類

進路データ



MYU LEARNING COMMONS

対話的かつ主体的な学びを。新しい学修スタイルに対応するラーニング・commons



大学で「学ぶ」ことは、教員の「Teaching」を受けるのみならず、自ら深めて学ぶ「Learning」を通して達成されます。こうした対話的かつ主体的な深い学び（アクティブ・ラーニング）に授業以外の時間を利用して取り組む空間が、ラーニング・commonsです。

「スチューデントcommons」は、机や椅子を自由にレイアウトでき、軽食をとりながら、規模を問わずミーティング等をいつでも気軽に行うことができます。海外留学や語学試験などの相談もできる「グローバルcommons」は、英語をはじめとした語学教材や海外放送、海外雑誌が揃っており、異文化に触れたい人や、留学生に最適の場所です。

「ディスカバリーcommons」は、約13万冊の蔵書を誇る図書館で、学生同士のミーティングやイベントを開けるスペースがあります。「データ&メディアcommons」には、パソコン学修を想定して各机にコンセントが配置された少人数学修空間「オープスタディ」、多様なPCソフトウェアと3Dプリンタが使用できる「デジタルリサーチ」のほか、各キャンパスの学びに合わせたデジタル機器空間や、パソコンの相談ができる「サポートオフィス」があります。学ぶ意欲のある学生が、学生同士で学びあえる空間がラーニング・commonsです。目的にあった環境を見つけ、「Learning」のための居場所にしてください。



事業構想学群

事業プランニング学類 入学定員 60名

地域創生学類 入学定員 60名

価値創造デザイン学類 入学定員 80名

入学者に求める能力

- (1) 地域社会の動向や時代の流れに興味を抱き、自ら問題を発掘し、論理的に考え、表現することを学ぶための基礎的な学力を有する人
- (2) 大学での勉学に対する強い意欲を持ち、高度な知識とスキルを身につけることによって具体的な行動をとって地域社会の課題を主体的に解決し、貢献することを目指す人
- (3) 事業構想（プロジェクト・デザイン）の分野でイノベーションをデザインすることにより、来るべき社会における新たな展開に貢献することを目指す人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

事業構想学群では、現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的に捉え、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政、社会の各分野で先導的役割を担える人材の育成を目指しています。

めざせる資格・免許等

- 簿記検定 ●公認会計士 ●税理士
- 技術士 ●防災士 ●中小企業診断士
- ITパスポート試験 ●WEBデザイナー
- 建築士 ●インテリアプランナー

社会保険労務士/司法書士/宅地建物取引士/総合旅行業務取扱管理者/基本(応用)情報技術者/統計検定/銀行業務検定/色彩検定/マルチメディア検定/CGクリエイター/CGエンジニア/画像処理エンジニア/福祉住環境コーディネーター/認定ファシリティマネージャー等
※めざせる資格は学類ごとに異なります。

未来志向で新たな事業を創造する力を身につけよう

事業構想学の使命は、未来志向で新たな事業を創造していくことです。デジタル技術の進化とグローバル化、それに加えて地球環境問題の進展は、社会システム全体を大きく変革しようとしています。また、少子高齢化や度重なる自然災害は、地域が抱える課題をますます深刻なものにしています。このような社会情勢や技術進化を的確に捉え、社会や人々の課題やニーズを把握し、将来を見据えた新しい事業を描き、実現していく力が求められています。事業構

想学群では、事業プランニング、地域創生、価値創造デザインの3つの視点から、未来を志向した新しいビジネスモデルや地域づくり、生活環境、情報コミュニケーションをデザインするための知識・技術を身につけるとともに、事業を構想するために必要な分析力や発想力を培います。宮城の地をフィールドとして、事業構想学を学び、未来の事業のあり方についてともに考えていきましょう。



事業構想学群 学群長 時苗耕司教授

事業プランニング学類

入学者に求める能力

新たな発想に基づき、実行可能な計画をまとめ上げることに強い関心を持ち、その際に必要となる、情報・データの読解、論理的な思考や表現の方法を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

現実の社会で顕在化している諸問題を分析し、新たなビジネスモデルの構築と運営できる能力（事業プランニング力）を育成します。

地域創生学類

入学者に求める能力

多様化・複雑化する地域社会の諸問題に対して強い関心を持ち、その課題解決に向けて思考・分析を行うとともに、地域活性化を目指すまちづくりや産業育成、それを動かす人・組織のデザイン、そして持続可能な環境に関する理論と技術を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

現実の社会で顕在化している諸問題を分析し、地域資源を活用することで新たな地域を創生する能力を育成します。

価値創造デザイン学類

入学者に求める能力

人間感性や地域風土に根ざしたデザイン原理や、人々の生活の場である建築・街・インテリアなどの空間や情報コミュニケーションをデザインする理論と技術を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

人間の感性や地域の資源に応じた新しい価値を創造できるサービス・生活環境・製品（ものづくり）を探究創造する能力（価値創造デザイン力）を育成します。

事業プランニング学類



事業創出に向けて専門領域を深める学び



Classes [授業紹介]

事業プランニング学類

Unveil New Values and Navigate Business Landscapes.

ビジネスモデルや事業プロセスの理論と実践を統合し、変化するビジネス環境で活躍する

そのために情報・データの読解力と論理的思考力を養い、人間力を高めることで、

事業資源を効率的に結びつける手法と新たなビジネス展開の可能性を探求します

ビジネスの視点で新しい価値を探求する力を育む

事業プランニング学類では、社会やビジネスにおける課題に対して創造的な解決策を見出す能力の育成を目指しています。また、柔軟な思考力と実践力を鍛えることにも焦点をあてています。単に知識を修得するだけでなく、ビジネスの視点で新しい価値を提案し、顧客を創造することを探求します。学生はそれぞれの関心事に基づいて、人々や組織と連携しながら、具体的な問題解決を考案

します。学生は事業資源を有機的に結びつける理論を学び、戦略的な思考法を修得することにより、グローバル化・情報化が進む現代社会において、地域社会からビジネスを考えます。これらの教育により、実社会で直面するさまざまな問題に対して、独自の視点でアプローチし解決していく力を身につけることができます。



事業プランニング学類 学類長
糟谷昌志教授

変化の激しい時代に・新たな価値の創出を マーケティング

テクノロジーの進化と共に、消費者の価値観も大きく変化しています。これまでの常識が破壊され、新しい事業機会が次々と生まれています。変化の激しい時代に、どのようにして新しい価値を生み出し、支持される商品・サービスを創るのか。本講義では、新たな価値創出に成功した商品・サービス開発のケースを基に、商品開発/価格設定/販売チャネル/プロモーションを軸としたマーケティングの理論と手法の習得を目指します。地域企業にも焦点を当て、世界で認められた東北企業の価値創出についても学びます。

市場競争において合理的に判断する能力を養う ゲーム理論

ゲーム理論では、市場競争においてどのような戦略を選択すべきか、またどのように利益が得られるかについて分析していきます。たとえば、ある業界で店舗を営んでいる際に、近隣に競合店が低価格戦略で新規出店してきたと仮定します。この場合、自分自身の店舗は価格や営業時間を変更すべきかなどについて、数理的に検討します。一般に事業の計画立案に際しては、市場の状況を予想して合理的な選択を検討することは必要不可欠であり、これらの分析力は有用なツールの1つとなります。



Student Voice

三瓶悠人さん
宮城県仙台東高校出身

実践と助言で磨く、ビジネスの発想力

多様な目標を持つ仲間と共に、マーケティングや経営など幅広い分野を学んでいます。グループワークでは実際にビジネスを創造する実践的な課題に取り組み、実務経験豊富な先生方からの確かな助言を得られます。現在は地域活性化を目的とした学生団体で、アイデアで地域を変えるやりがいを実感中です。

主な学べる分野

経営財務・金融/経営学・組織論/
経営戦略/法学/経済学/会計学/
マーケティング/社会システム/
社会調査/ビジネスと先端テクノロジー



内田直仁研究室

利潤追求と社会貢献の一致を探る

倫理のない経済は犯罪、経済のない倫理は戯言と二宮尊徳は説きました。社会変革の実現や継続には、採算性が重要です。正しい人が儲かる事業構想を考察しています。



高山純人研究室

講義で学んだものを、実践へ

実践、行動、挑戦。マーケティングゼミでは理論はもちろん、それを行動に移したかどうかを重要視しています。成功したかどうかではなく、挑戦したか、最後までやりきったのか。それを楽しんでください。



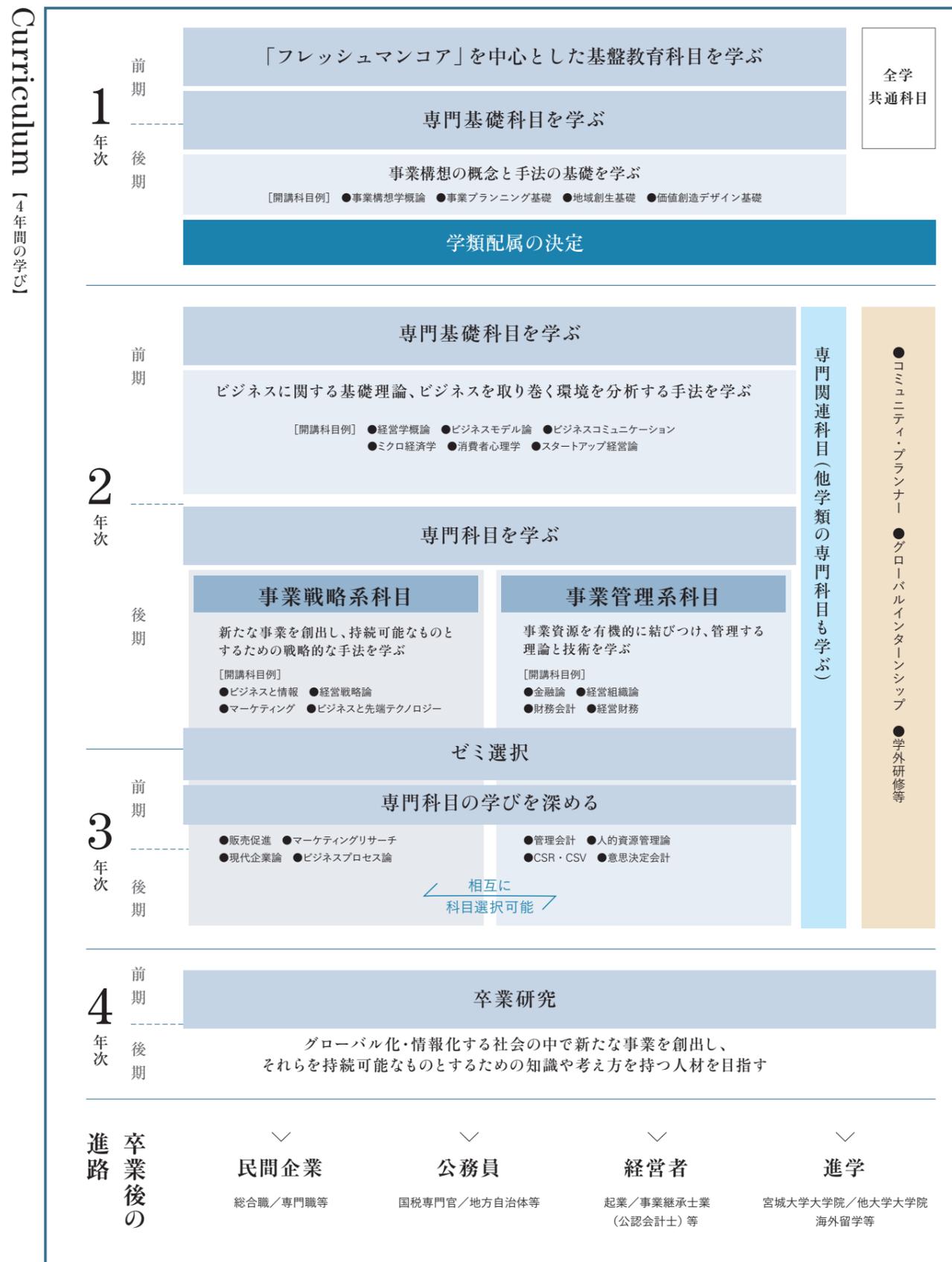
糟谷昌志研究室

情報を収集・分析し活用する

データを分析しその結果を正しく解釈できれば、社会の変化に対応できます。人々が社会に参加する上で、満足度の高い事業モデルを構築するにはどうすれば良いか探求します。

MYU Seminars [研究室紹介]

事業プランニング学類：4年間の学び



社会で活躍する卒業生

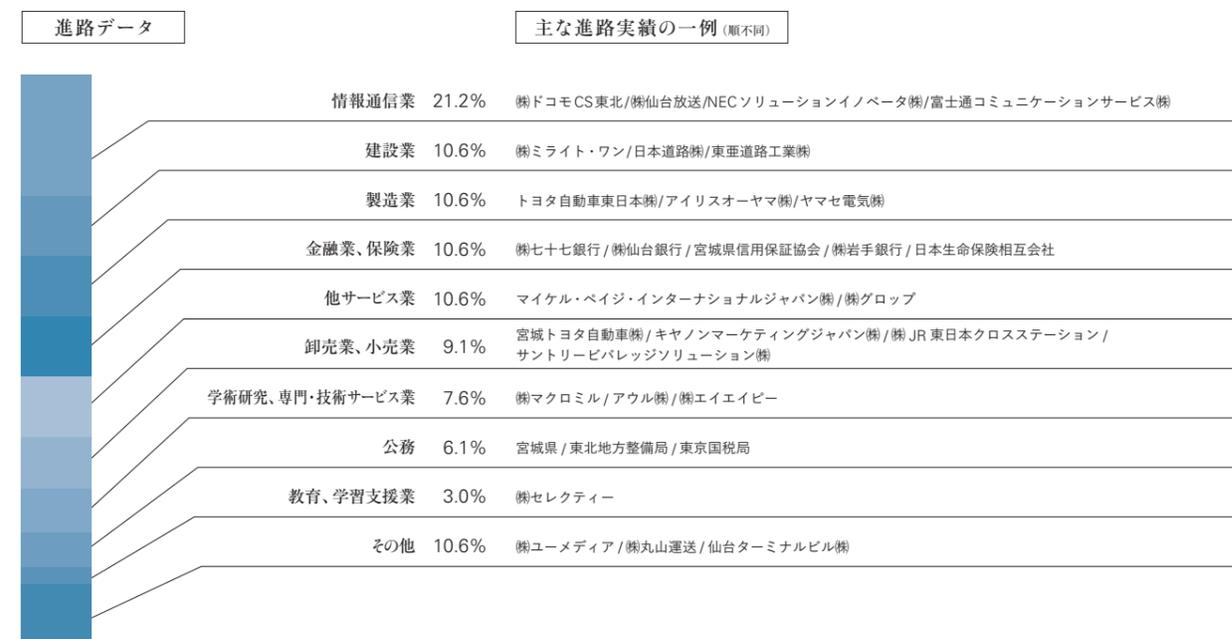
失敗の許容性

日立製作所 事業戦略部門
佐々木一馬さん(2006年3月卒業)

日立製作所にてM&Aを含めた組織再編や経営計画の策定に従事しています。入社後は営業職から始まり、経営企画、インド駐在、海外MBAの取得と、さまざまなキャリアアップに挑戦してきました。私が考える宮城大学の魅力は「失敗への許容度」の高さです。宮城大学にはさまざまな挑戦の場が用意されており、平凡な学生であった私も色々なことに取り組みました。中には大きな失敗をすることもありましたが、その度に教授など周囲が前向きにサポートして下さいました。その環境で過ごす中で、リスク許容度が高まり、難題にも立ち向かってみる姿勢が身につきました。社会に出た後は失敗が許されることは少なく、学生だからこそできる大事な経験だと考えています。色々な経験を積み重ね、多様な人々と出会えることに仕事の楽しさを感じています。皆さんも自分の世界を広げることに挑戦し、素敵な出会いを得て欲しいと思います。



進路データ



進路データは、2025年3月31日現在 小数点以下第2位を四捨五入

地域創生学類



Creating Sustainable Communities.

頻発する災害や人口減少など、地域におけるさまざまな課題をいかに解決していくか
 多様化する社会や価値観の中で、あらゆる地域課題の解決に向けた事業創造や政策立案、
 それらの根拠となる科学的分析手法を学び、社会に貢献することができる人材を育てる

「新しい地域学」デジタル技術を活用し、地域課題の解決を目指す

SDGsとして示される経済と社会、環境の調和、この実現は可能なのだろうか。持続可能な開発に関して、ローマクラブが『成長の限界』を著したのは1992年のことであった。半世紀が過ぎ、その解決策は未だ模索の途上にある。地域創生学類では、以下の3系からなるアプローチで、こうした持続可能性の問題に、実践的に取り組んでいる。3系とは、「地域アントレプレナー系」、「地域

政策・公共系」、「地域環境・計画系」である。加えて、最近では、デジタル技術の活用にも積極的に取り組み、フィールドリサーチを進めている。各種技術をもとにした事業企画の立案も進めており、企業や自治体との連携による課題解決プロジェクトも活発化してきた。このような、地域創生学類が目指す「新しい地域学」の扉を共に開いていきましょう。



地域創生学類 学類長
佐々木秀之教授

フィールドワークを通して、地域課題の解決をより実践的に学ぶ

上森貞行研究室

実社会に貢献する政策形成力を身につける

人口減少・少子高齢化等の進行に伴い、地域社会にさまざまな課題が発生する中、行政はどのようにして市民ニーズに対応した政策を立案すればよいのか。そして、どのように市民や民間事業者等と連携しながら、地域課題を解決する公共サービスを提供すればよいのか。公共政策研究室では、地域課題の解決や今後のまちづくりに関して、行政の立場に立ち「理論」と「実践」の両面から政策形成について研究します。



中沢峻研究室

地域における、多様なひと・組織による連携を探究する

東北をはじめとする地域社会では、地域の魅力や可能性を資源とする新たな価値づくりが求められています。また、現代は社会の成熟化が進む一方で、根本的な解決が困難な社会・地域課題が顕在化しています。豊かでしなやかな地域の実現に向けて、地域住民、地域団体、企業、政府、NPO、専門家など、それぞれ異なる立場からどのような関わり方ができるでしょうか。本研究室では、フィールドワークやプロジェクトを通じた学修活動によって、多様なひと・組織による連携のあり方を探究します。



MYU labs 研究室紹介

地域創生学類

Student Voice



氏家万智さん
宮城県古川黎明高校出身

理論と実践で挑む、地域課題の解決

地域の現場に出て、課題発見からプロジェクトの実施まで、学生のうちから実践できる環境が魅力です。統計的な地域分析から現場での実践まで段階的に学べるため、自信を持って地域に飛び込めます。自分たちで立ち上げたプロジェクトで課題解決に挑戦できる経験は、大きな強みとなりました。



コモンズデザイン論

コモンズの視点から地域社会のあり方を問う

脱成長の時代において、人々の暮らしや営みそのものを問い直すことが肝要です。「コモンズ（共有資源）」に関するケーススタディから、持続可能な地域づくりを考えます。



公共経営

持続可能な地域社会を構築する

地方自治の仕組みや地域の政策について理解を深めるとともに、行政、企業・団体、市民など官と民の両者が連携して公共性の高いサービスを提供する方法を学びます。



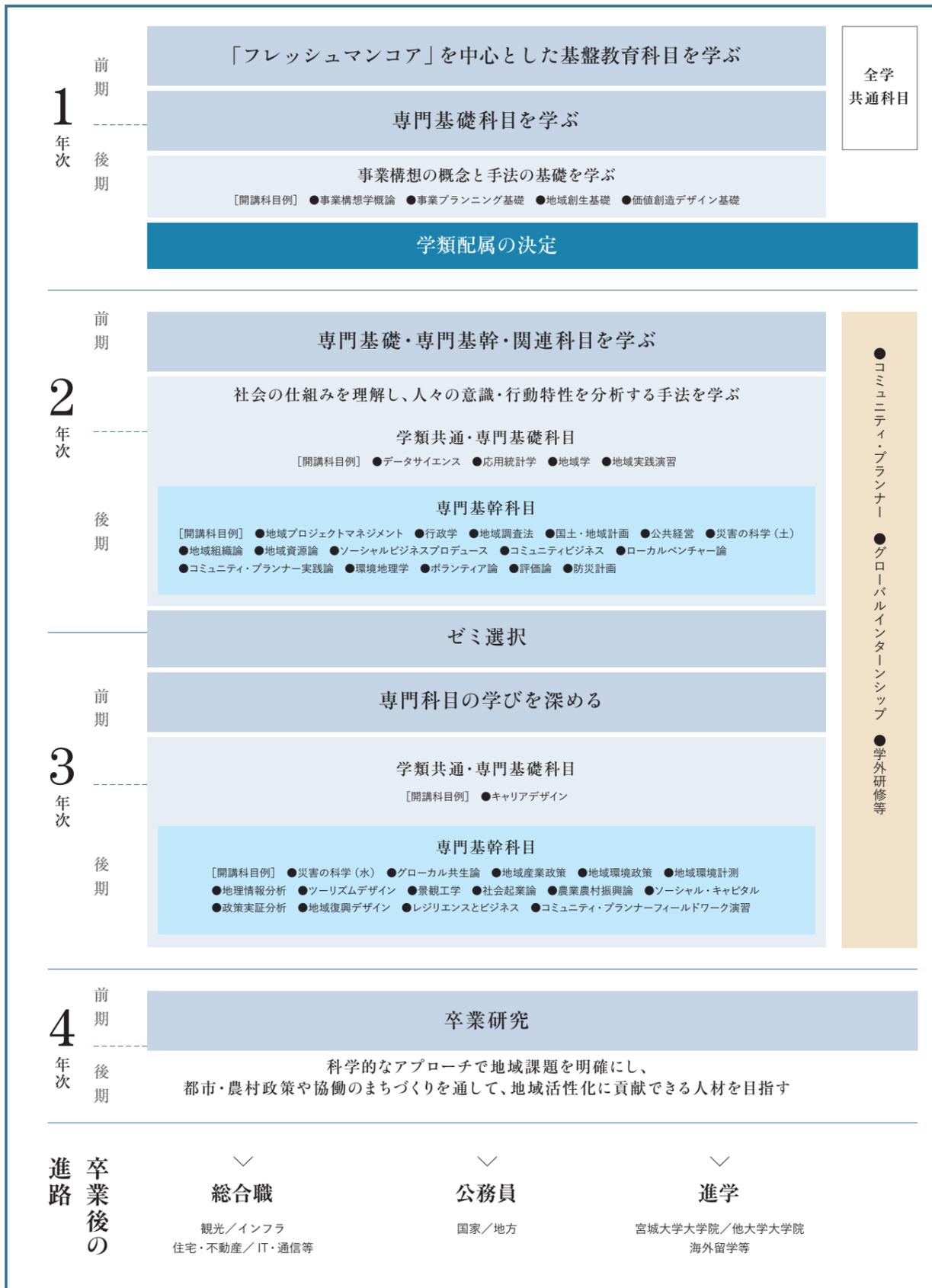
環境地理学

自然・風土を理解して地域の姿を考える

地域のあるべき姿を考えるには、自然とそれを活用する人々の生業の歴史を理解することが重要です。GISで関連地図を作成しつつ、人間生活にかかわる自然・風土を学びます。

Classes 授業紹介

地域創生学類：4年間の学び

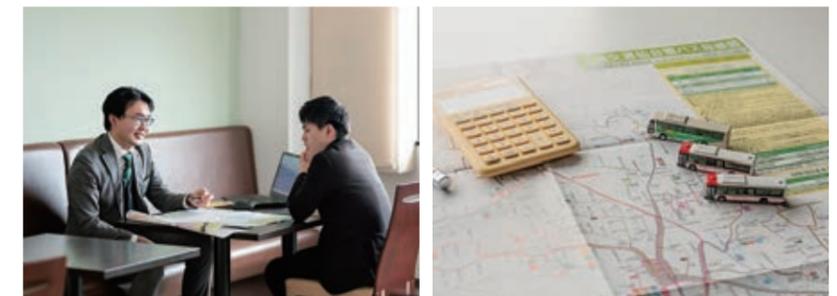


社会で活躍する卒業生

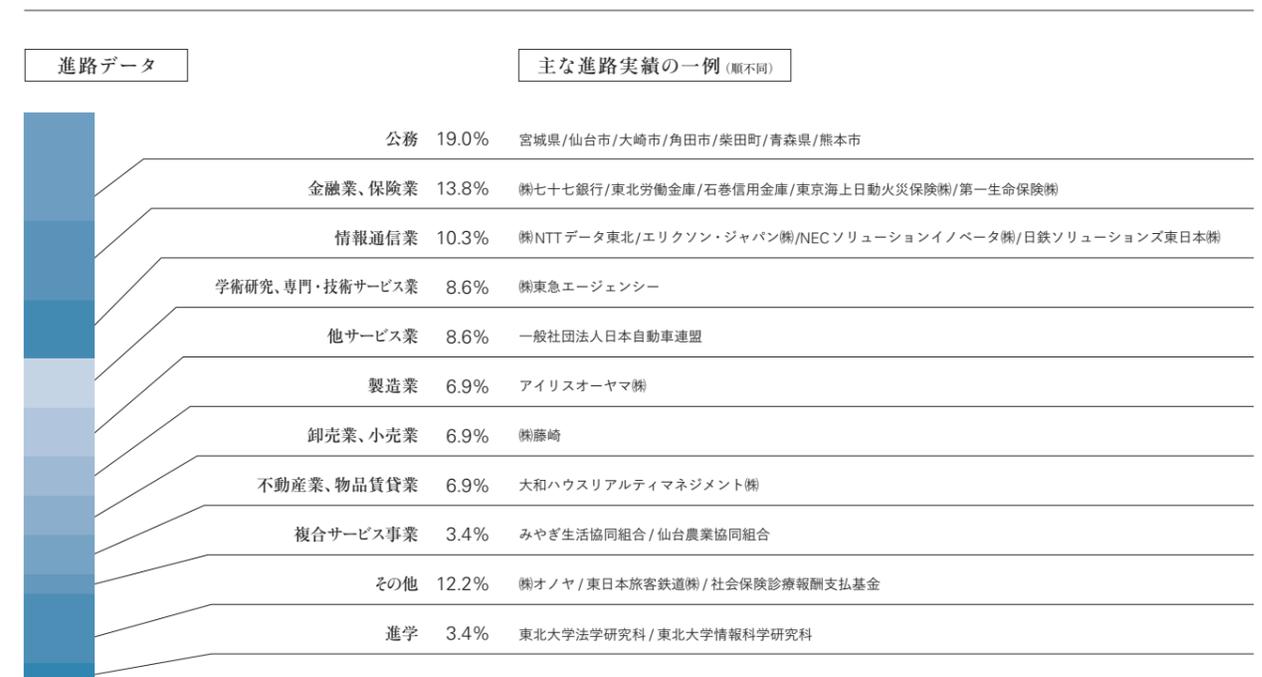
地域の足を守る 公共交通の未来を描く

宮城交通株式会社 営業部 計画課
山本知宙さん(2024年3月修了)

生活の足である路線バスの維持確保のため、各自治体との協働による改善計画等を担当しています。3年次の授業で交通計画を学び、卒業研究のテーマに選んだことが現在の仕事につながりました。地域創生と一見関係ないように思える交通ですが、街のぎわいには交通手段が不可欠です。自治体とのやり取りでは、路線の根幹にかかわる重要な仕事に携わり、自分が関わったバスが走る様子を見ると大きな喜びを感じます。宮城大学には、都市と地方の特徴を併せ持つ立地を活かしたさまざまな学びのフィールドがあります。防災分野など新しい技術を使った研究から、山間部の温泉地の活性化のようにフィールドに入って行う取り組みまで、幅広い経験ができます。県内の地域への理解を深められたことは、現在の仕事に大きく活かしています。将来は交通弱者のいない宮城県を目指し、マイカーだけに頼らない交通環境づくりに挑戦します。



進路データ



進路データは、2025年3月31日現在 小数点以下第2位を四捨五入

価値創造デザイン学類



Creating “New Value & Design” for the Society.

情報・生活環境・建築のデザインを通して、新しい価値をどう生み出していか

日々変化する社会環境を観察し、デザインが担う役割を学びながら、

多様な課題を解決へと導く論理的思考力と表現力を身につける

手を動かし、試行錯誤を繰り返しながら価値を創造する

私たちの世界はグローバル化や環境問題、そしてAI、IoT、XRといった先進テクノロジーの進展により急速に変わりつつあります。ビジネス、ライフスタイル、さらには価値観までもが大きく変化する中で、私たちはどのようにして生活者一人ひとりの真のニーズを理解し、新たな価値を創造しているのでしょうか？

価値創造デザイン学類ではプロダクトや建築、空間、情報メディアやサービス、システムのデザインを学びながら、これらの疑問に答える方法を探究します。デザインの理論と実践を深めることで、課題を発見し、現実的かつクリエイティブな解決策を見出して実装するスキルを身につけられます。自ら手を動かして制作し、試行錯誤を繰り返しながら新たな価値創造を探究しましょう。



価値創造デザイン学類 学類長
太田賢教授

基礎理論からつくる技術、そして価値を生み出す実践力まで幅広く養う

1. 感性情報デザイン演習Ⅳ

ユーザーを意識した体験のデザイン
デジタル技術を用いたインタラクティブ作品の制作と学外での展示を通じて、デザインプロセスを統合的かつ実践的に学びます。

2. 生活環境デザイン演習ⅢA、ⅣA

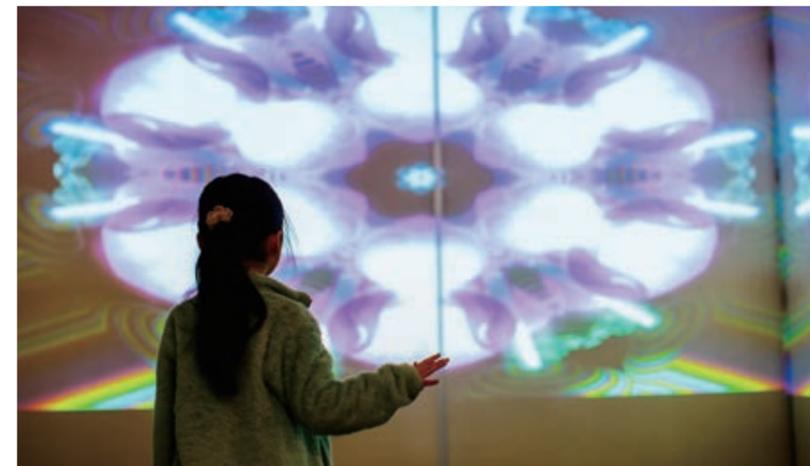
実践で学ぶ、生活環境デザイン
生活環境に新たな価値をもたらすべく、建築空間の構想プロセスや表現技法などを学び、社会課題の解決に向けた実装に取り組みます。

3. 生活環境デザイン演習ⅢB、ⅣB

パラメトリックデザイン手法で椅子制作
宮城県登米市産の杉材を用いて、CNC加工機を駆使し、木製椅子を制作します。

一級建築士受験のための指定科目に認定

価値創造デザイン学類のカリキュラムが一級建築士の科目としての認定を受けました。これにより、所定の単位を修得すると、一級・二級・木造建築士を受験できます。



Student Voice

デザインを学ぶ中で見つけた新しい道

幅広い分野のデザインを学べる点が魅力です。私はもともと造形やプロダクトデザインに興味を持っていましたが、情報系デザインを学ぶ中でIT分野が持つ大きな可能性に気づき、新たな目標ができました。デザインを課題解決の手法として学べることも実践力につながっています。



友淵貴之研究室

地域の土着性と現代的価値観の融合による暮らしのデザイン

地域社会において育まれてきた生活の知恵や技術、文化、慣習を重要な資源と捉え、これらの諸要素が成立する背景を読み解き、現代的な価値観を融合させることで地域らしさを有した持続的で新しい暮らしの可能性を描くための方法について建築学の視点で研究します。

制作設備・施設一覧

製図や模型製作が行える製図室／高性能PCが整ったデザインラボ／レーザーカッターや3Dプリンタといったデジタルファブリケーション機器を備えたクリエイティブラボ／演習ではクリエイター向けソフト「Adobe Creative Cloud」やCADが利用可能

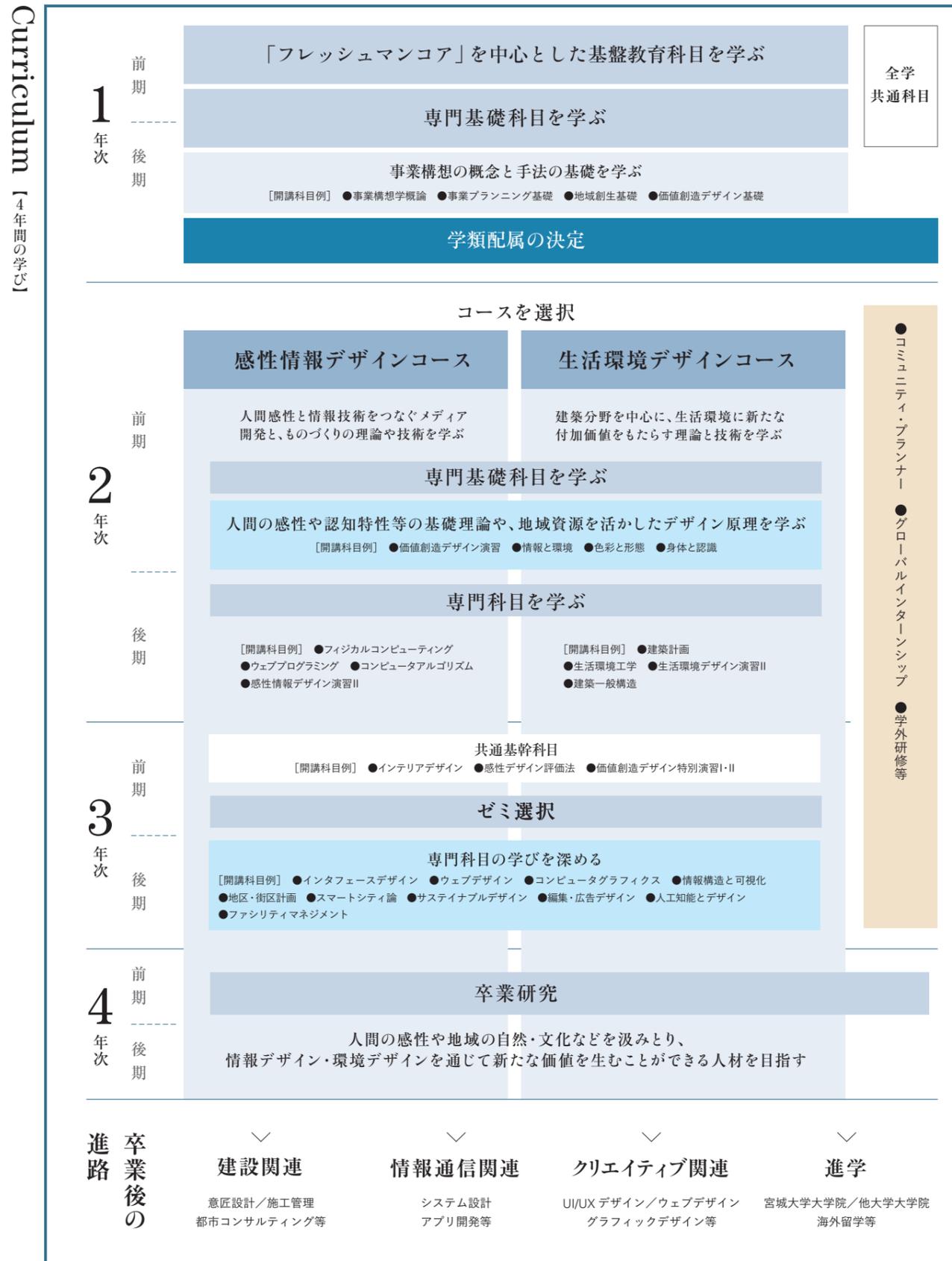


太田賢研究室

デジタルとデータ、デザインで人を動かす

現実と仮想空間が融合するサイバーフィジカルシステムにおける行動支援サービスの創造に取り組んでいます。人の行動を変える鍵は何か？AI、IoTとデータ分析を基盤としたサービスデザインを通じて、人の行動や習慣を効果的に変える行動変容支援技術を探求します。

価値創造デザイン学類：4年間の学び



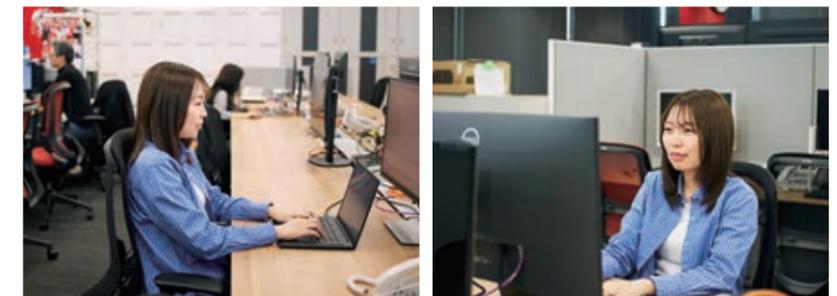
社会で活躍する卒業生

テレビの舞台裏で 技術の力を届ける

株式会社テレビ朝日クリエイト CGシステム部
早坂涼香さん(2017年3月卒業)



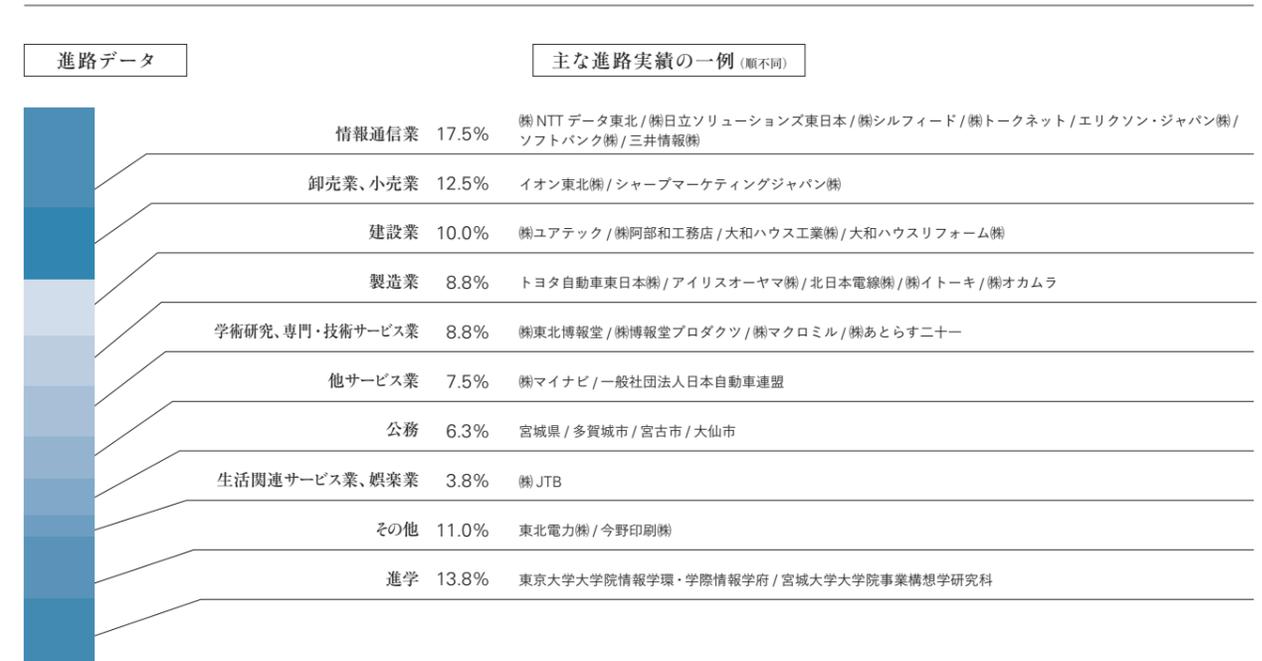
スポーツ中継や M-1 グランプリなどの番組で、得点や選手情報をリアルタイムに映像へ表示するCG制御アプリの開発に携わっています。野球のWBCやオリンピックといった世界的なイベントにも関わり、多くの方に情報を届けられることにやりがいを感じています。番組をチームで作り上げる過程は文化祭のようで、楽しみながら仕事に取り組んでいます。宮城大学は自主性を重んじる環境が魅力でした。新しい技術に触れられる環境が整い、インタラクティブデザインやプログラミングを学べるカリキュラムに惹かれて入学を決めました。先生方は業界の動向に詳しく、積極的にサポートしてくださいました。大学での実習やグループワークを通じて培った協働力は、現在の業務での基盤となっています。今後はシステム開発のスキルをさらに深めるとともに、円滑なプロジェクト運営にも力を入れていきたいと考えています。



Graduates [卒業生の活躍]

価値創造デザイン学類

進路データ



進路データは、2025年3月31日現在 小数点以下第2位を四捨五入

MYU SUPPORT FOR STUDENTS

学生みなさんが安心して大学生活を送ることができるよう、さまざまなサポート体制を用意しています。



適切かつ円滑な入学選抜を目指して アドミッションセンター

本センターは、入試に関する調査・研究、入試制度の検討及び策定、適切な入試の実施、さらに入試実施後の分析や受験生への情報提供等を全学的に担当し、本学の教育研究の充実と発展に寄与することを目的として設置されています。



学術情報コンテンツの集積・発信から独自のソフト事業まで 学術情報センター(図書館)

図書や論文、視聴覚資料など学術資料の収集・提供を通じて本学の教育・研究・学修支援に取り組んでいます。学内の研究成果等を集積してデジタルアーカイブの構築も進め、学外に向けた情報発信にも力を入れています。



豊かな大学生活をサポートします スチューデントサービスセンター

学生みなさんの大学生活を支援するセンターです。学内の生活支援はもちろん、サークル活動やアルバイト、ボランティアなど学外での生活についての支援も行います。大学生として一人ひとりが自主的・積極的に学生生活を送っていくことをサポートします。



学生に寄り添ったキャリア形成支援 キャリア・インターンシップセンター

大学卒業後に地域や社会で活躍したい学生を支援するため、キャリア教育支援プログラムやインターンシッププログラムを提供します。また専門職員による進路相談や就職支援体制を整え、学生のキャリア形成に向けた活動をサポートします。



健康で充実した学生生活を送るために 健康支援室(保健室・学生相談室)

学生の健康維持と増進のため、毎年定期健康診断を実施し、一次予防、二次予防の観点から個別指導も行っています。また、保健室と学生相談室は、大和、太白キャンパスにあり、健康相談や健康教育を提供し、心身の両面から学生生活を支援しています。



多様なステークホルダーと共創し地域の発展に貢献 研究推進・地域未来共創センター

宮城大学の横断的な教育・研究の成果や知的財産を活用し、東北・宮城のさまざまな地域の資源や人材を新たな発想と視座から連携し、新たな研究開発や地域未来共創プロジェクトを推進し、持続可能な地域社会を実現していきます。



食産業学群

生物生産学類 入学定員 62名

フードマネジメント学類 入学定員 63名

入学者に求める能力

- (1) 食及び食を取り巻く環境に興味を持ち、自然科学の基礎知識を身につけている人
- (2) 論理的に考える力を修得し、食の安全・安心、環境との調和などの課題解決に取り組みたい人
- (3) 地域社会の一員として、さらには世界的な観点から食産業を考え、その発展に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

食産業学群では、食につながる生物生産とその供給から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い専門的知識と技術を持ち、食産業全体を理解し、地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材の育成を目指しています。

「食産業学」は文系・理系の総合知

食産業学群の4年間で身につけていただきたいのは、「食」のさまざまな事柄について「調べ、考える力」です。これは行動の原動力です。私たちの「食」を支えているのは、原料である農畜水産物などの生物の生産、それを加工して流通させ、安全で健康的な消費を可能にする複雑なシステムです。このシステムが食産業であり、産業として持続的に機能させるには経済の仕組みや経営、食文化なども大きく関わってきます。このシステムを発展、進化させてゆく食産業学では

自然科学分野や工学などの理系学問と社会科学などの文系学問の両方から総合的に取り組まなくてはなりません。食産業学の大きな特徴はここにあります。今後、食産業へのIoTや人工知能の組み込みがさらに加速しますが、人間にしかできない「調べ、考える力」を研究を通して得た最先端の知識を基にした授業や実験、実習を通して学びます。並行して行われる充実したキャリア教育によって卒業時には食産業で活躍する社会人としての実力と自信がつくと確信します。



食産業学群 学群長
井上達志教授

生物生産学類

入学者に求める能力

生物資源開発や生産環境技術、経営を通して、持続的な食料生産とその供給に強い関心を持ち、食産業の幅広い専門的知識と技術を身につけ、社会に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

地域の生物資源の高付加価値化や生産方法に関する知識・技術を養い、科学的素養に基づきながら地域資源を活用し国際的視点で食産業の課題を自発的に解決して、未来を開拓できる能力を育成します。

フードマネジメント学類

入学者に求める能力

食の製造・加工から流通・消費に至る食産業のプロセスについて、サイエンスとビジネスの両面において知識や技術を身につけ、社会に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

フードシステムの構築に必要なサイエンスとビジネスの両面の知識・技術を養い、科学的素養に基づきながら地域資源を活用し国際的視点で食産業の課題を自発的に解決して、未来を開拓できる能力を育成します。

生物生産学類



Committed to Bringing Innovations to the Farms of the Future.

今、“食”を支える農業は変革の時。バイオサイエンス、植物・動物・水圏生物の生産科学から

IoTやAIを活用する生産環境情報、生産ビジネスまで、食の生産を網羅する多様な分野を広く、深く学び、

生産のイノベーションで食の未来を創造する

新たな知識や技術によって切り拓く持続可能な食材生産

地球温暖化に伴う気象変動は災害を引き起こすだけでなく、気温上昇による作物収量の低下など食材生産にも悪影響を及ぼし始めています。生物生産学類では、今後の持続可能な食材生産として期待される、ゲノム情報を活用した農作物、家畜の品種改良やIoTやAIなどを活用したスマート農・畜・水産業、バイオエタノール等の資源リサイクル、食材の発展的ビジネスなどについても学べる

ように6つの履修モデルを設定し、柔軟なカリキュラムを展開しています。将来の進路に合わせて科目を選択することで、さまざまな生物の生産、ビジネスに関する最新の知識や技術を幅広く身につけることができます。生物生産学類で、おいしさや付加価値、環境負荷、ビジネスなどのさまざまな視点から食材生産を考え、一緒に食の未来を切り拓いていきましょう。



生物生産学類 学類長
岩井孝尚教授

座学に加え、実験・実習を通して体験することで、学びをより深める



農業経営経済学演習

国内農業や地域社会の方向を議論

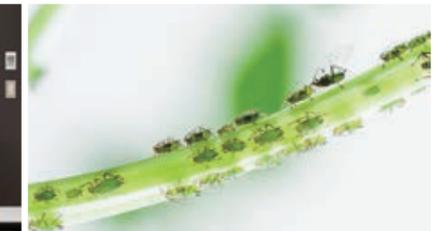
食料安全保障や人口減少の課題と共に、統計データから解決策を考える方法を学びます。



分子生物学

生命現象を分子レベルで解明する

遺伝子の構造と性質および発現調節機構、さらに最新の遺伝子工学技術について学びます。



植物保護学

病害虫を知り、その防除を考える

植物の病気や害虫の発生生態、それから農作物を守る環境にやさしい防除法について学びます。



アグロテクノロジー

生産の課題や可能性を深く学ぶ

さまざまな視点から生産技術の特徴を学び、自ら新しい技術を提案するプレゼンを行います。



水棲植物学

持続的な海藻養殖に必須な知識の修得

ノリなどの海藻資源の持続的な維持・生産に向けたさまざまな考え方や研究手法を学びます。



動物飼料・栄養学

畜産物は欠かせない食材です

肉、乳、卵などの畜産物の原料は餌です。飼料が動物の体内で畜産物になる過程を学びます。



大野萌依さん
北海道北広島高校出身

Student Voice

専門性を活かして県農業の未来へ

農業の専門知識を座学と実験の両方でしっかり学べる環境が整っています。専門性の高い授業のおかげで、公務員試験の勉強も自信を持って取り組むことができました。卒業後は宮城県職員として、大学で学んだ知識や技術を活かし、県の農業と魅力を広く発信していく仕事をしていきたいです。

取得できる資格

食品衛生監視員
食品衛生管理者
HACCP管理者
食の6次産業化プロデューサー

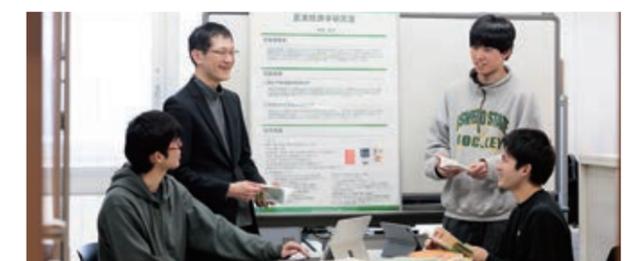
所定科目の単位を取得し、卒業後、所定の要件を満たした場合に上記の資格が取得できます。



動物遺伝育種学研究室 (須田義人)

免疫能強化を目指した家畜の品種改良に取り組む

“このお肉、おいしいね!”と人が感じるには、その家畜が健康に育つ必要があります。そのためには、病原体に対して抵抗できる強い免疫能力を持つことが重要で、当研究室では免疫力を強化する機能性乳酸菌の開発とその刺激効果が高い遺伝子型を指標にして免疫能強化を目指した家畜の品種改良に取り組んでいます。



農業経済学研究室 (紺屋直樹)

持続可能な農業と地域経済の発展を目指して

農業に関わる問題は複雑で多岐にわたります。本研究室では、持続可能な農業と地域経済の発展をテーマに、文献購読を通じて農業経済学の専門知識を深めます。また、フィールドワークやデータ分析に取り組むことにより、地域社会への貢献を目指します。

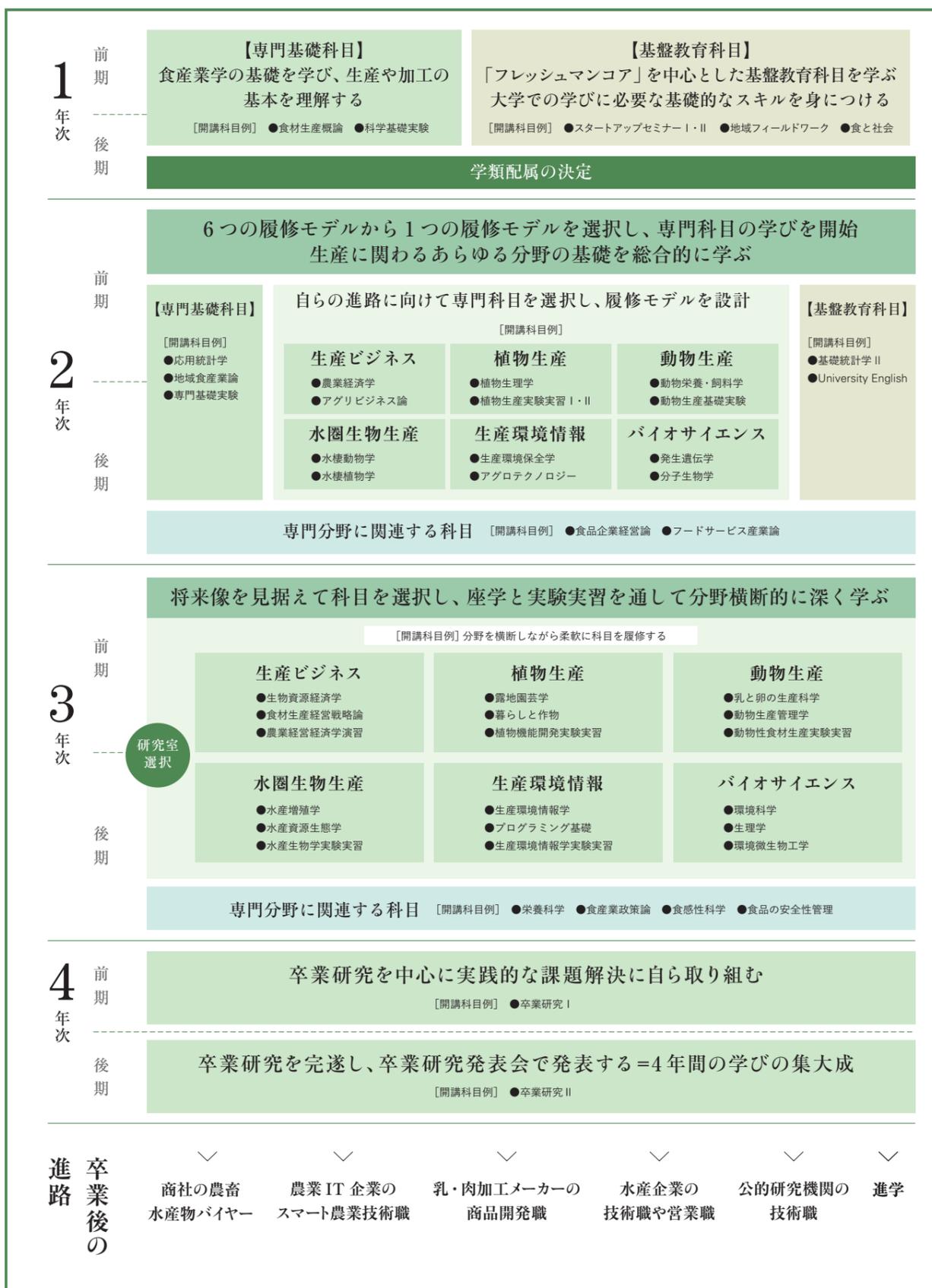
Classes [授業紹介]

生物生産学類

MYU labs [研究室紹介]

生物生産学類：4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



社会で活躍する卒業生

先端技術で農業現場の課題解決に挑む

国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構
森大佑さん(2024年3月修了)

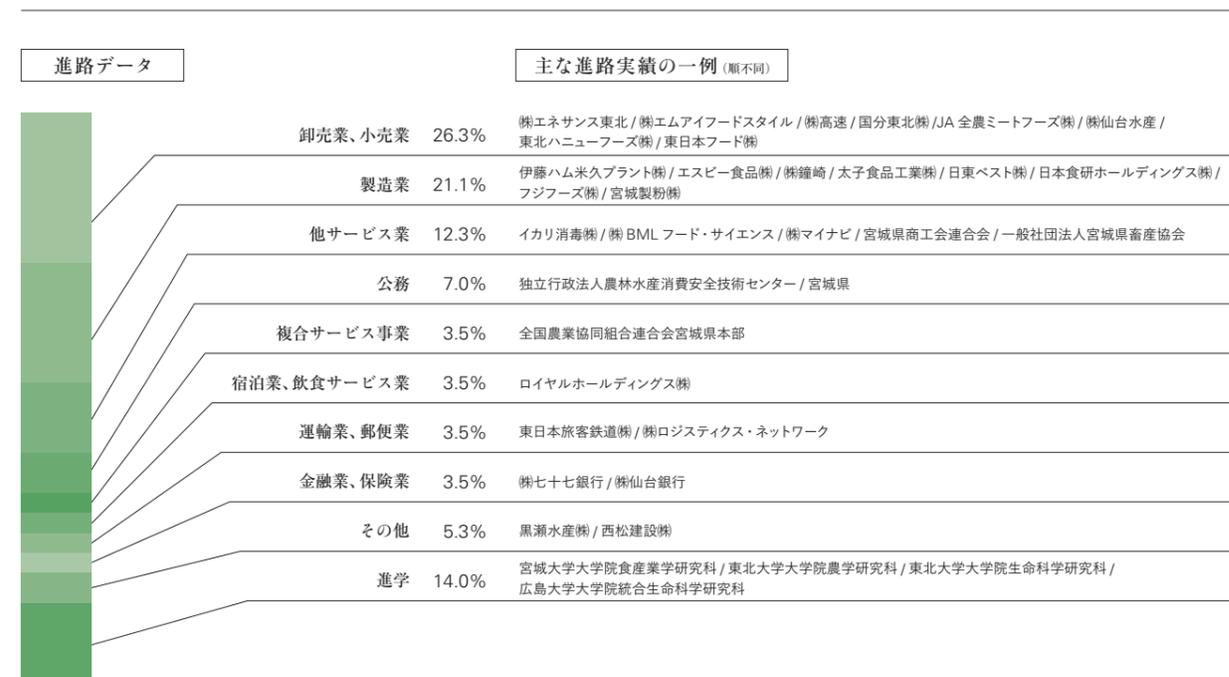
画像処理や深層学習を活用し、効果的なイチゴの栽培方法について研究しています。学生時代に機構を見学した際、研究者たちが「現場で使ってもらえる技術をどう開発するか」を真剣に議論する姿に感銘を受け、この道を選びました。全国の圃場で生産者の方々と直接対話し、課題解決に向けて仮説を立て、チームで検証を重ねる過程にやりがいを感じています。宮城大学の魅力は、文理の枠を超えて多様な講義・実習を受けられる点です。当初は生物分野だけに興味がありましたが、大学での学びを通じて情報工学分野への関心も芽生え、分野横断の研究につながりました。また、充実した英語学習環境のおかげで、現在は英語論文の読解や海外研究者との交流にも積極的に挑戦できています。生産者の方々に「便利になった・助かった」と言ってもらえるような技術開発を目指し、新たな分野にも挑戦し続けていきたいです。



Graduates [卒業生の活躍]

生物生産学類

進路データ



進路データは、2025年3月31日現在 小数点以下第2位を四捨五入

フードマネジメント学類



Researching and Studying Food Invites You to Looking at what Food would Do to Our Body, Society and the Whole World.

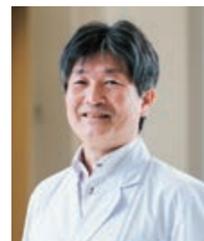
食は身体を作るだけでなく、時として世界を動かす。

最先端のサイエンスとビジネスの視点から食に関わる問題を徹底的に追及する

栄養から社会まで、「食」のすべてを語るスペシャリストに

「食との関係」と聞いて何を思い浮かべますか？我々が口にする食材は世界中で生まれ、運ばれ、調理され、生きる糧となります。一口に食と言ってもとても広い分野が関わります。フードマネジメント学類では「文理融合」を掲げ、食に関わる科学技術から社会現象に至るまで広く学ぶことができます。1年次では基礎を、学年が上がるに伴い「食品製造・加工」「食品開発」「食の安全・安心」「食

品流通・サービス」の4つの履修モデルに基づき専門性の高い科目を学びますが、モデルを超えた履修も可能です。4年次には集大成としての卒業研究に取り組み、学類全員参加の発表会では活発な質疑応答が行われます。また授業や課外活動の一環として県内外の企業と清酒やお土産品などの商品開発も行っており、実践的な学びを得ることもできます。



フードマネジメント学類 学類長
毛利哲教授

マーケットのわかる技術者、技術のわかるマーケットターを育てる

1. 調理科学

おいしさを探求する

食べること、作ることに関する理解を深め、人々の健康や幸福を願いながら、調理の理論を提供することを目的とする講義です。

2. 分析基礎実験

食品成分の正しい測定方法を学ぶ

食品の栄養・機能を表すのに正しい表示は欠かせません。この科目では測定原理や数値の見方、正しい測定スキルを実験を通して学びます。

3. 食品情報科学論

食産業での情報技術・科学とは？

食をとりまく環境を大きく変化させてきたデジタル技術や情報システム、ビッグデータなどの発展とその活用について学びます。

4. 食産業政策論

安全で安心な食を支える仕組み

食品を生産、流通、加工を経て国民が消費するまでに守る必要があるさまざまな法制度や振興政策をSDGsとも関連付けて学びます。



手島愛佳さん
角川ドワンゴ学園N高校出身

Student Voice

基礎から実践まで食を総合的に学ぶ

食について、生産から消費の過程まで多角的に学ぶことができる点は最大のメリットです。基礎知識がビジネスの現場でどう活かされているのか、企業や官公庁の方から直接学ぶ機会が豊富な点も魅力のひとつです。理論と実践をバランスよく学びながら、食品衛生管理者等の資格取得も目指せます。

取得できる資格

食品衛生監視員
食品衛生管理者
HACCP管理者
食の6次産業化プロデューサー

所定科目の単位を取得し、卒業後、所定の要件を満たした場合に上記の資格が取得できます。



生物資源利用学研究室 (笠原紳)

酵母や乳酸菌の潜在能力を開発し利用する

生物資源利用学研究室では、酵母や乳酸菌など食産業で用いられる微生物の高度利用法について研究しています。特に体によいとされる微生物が、どのような仕組みで健康増進効果を発揮しているのかを調べたり、遺伝子を解析することで潜在的に備わっている能力を探ったりしています。



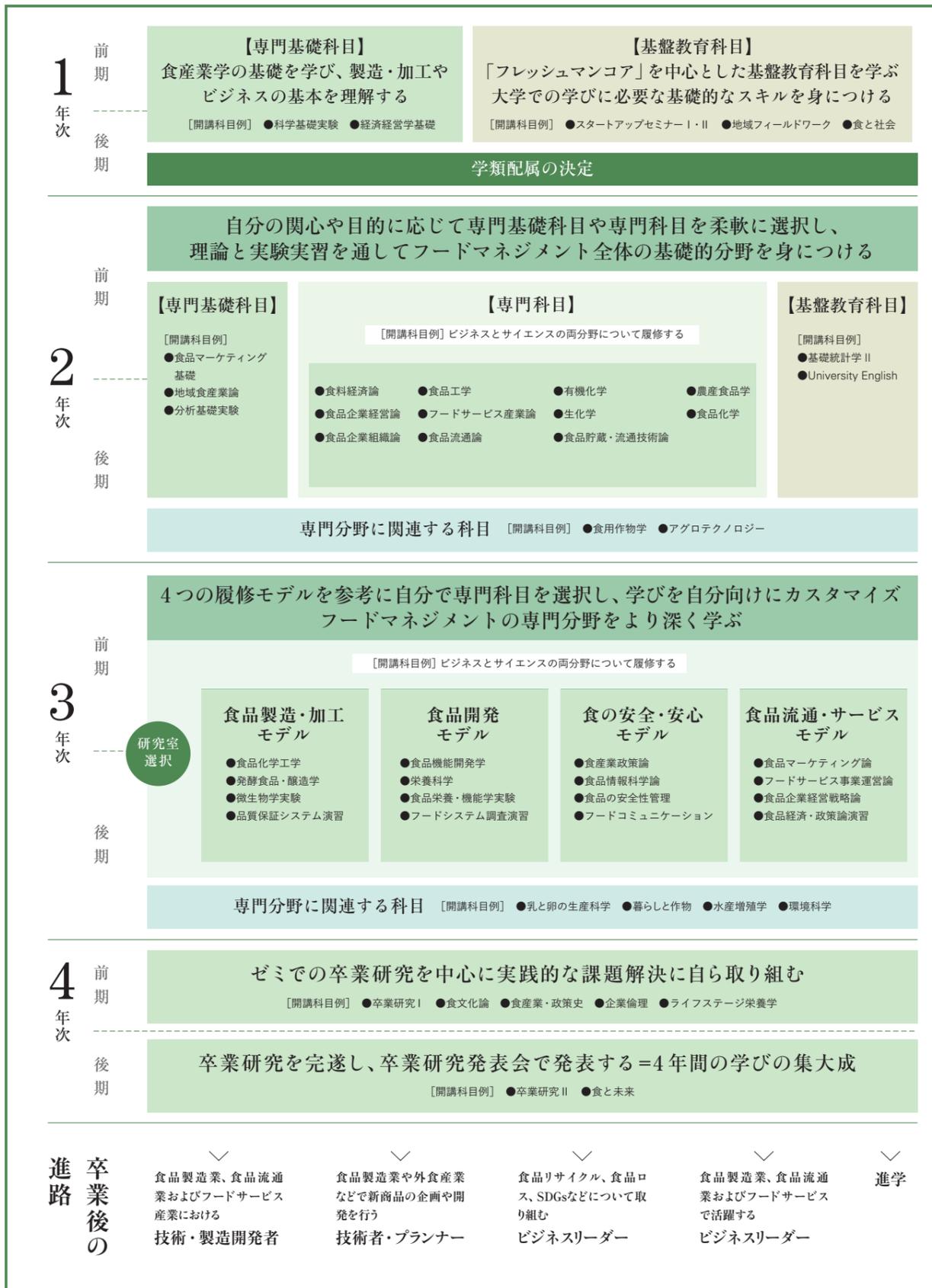
マーケティング・コミュニケーション研究室 (滝口沙也加)

食産業をマーケティングの視点から学び議論する

普段何気なく目にする食品パッケージや食品小売店の売場にはどのような企業の意図が隠れているのでしょうか。食品の顧客価値や消費者行動を理解しながら、これからの食品マーケティングのあり方について考え、ディスカッションする力を楽しく身につけます。

フードマネジメント学類：4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



社会で活躍する卒業生

食品の品質を守り
価値の向上を目指す

ゼライス株式会社
品質管理部 品質管理グループ
菊田雅晃さん (2022年3月卒業)

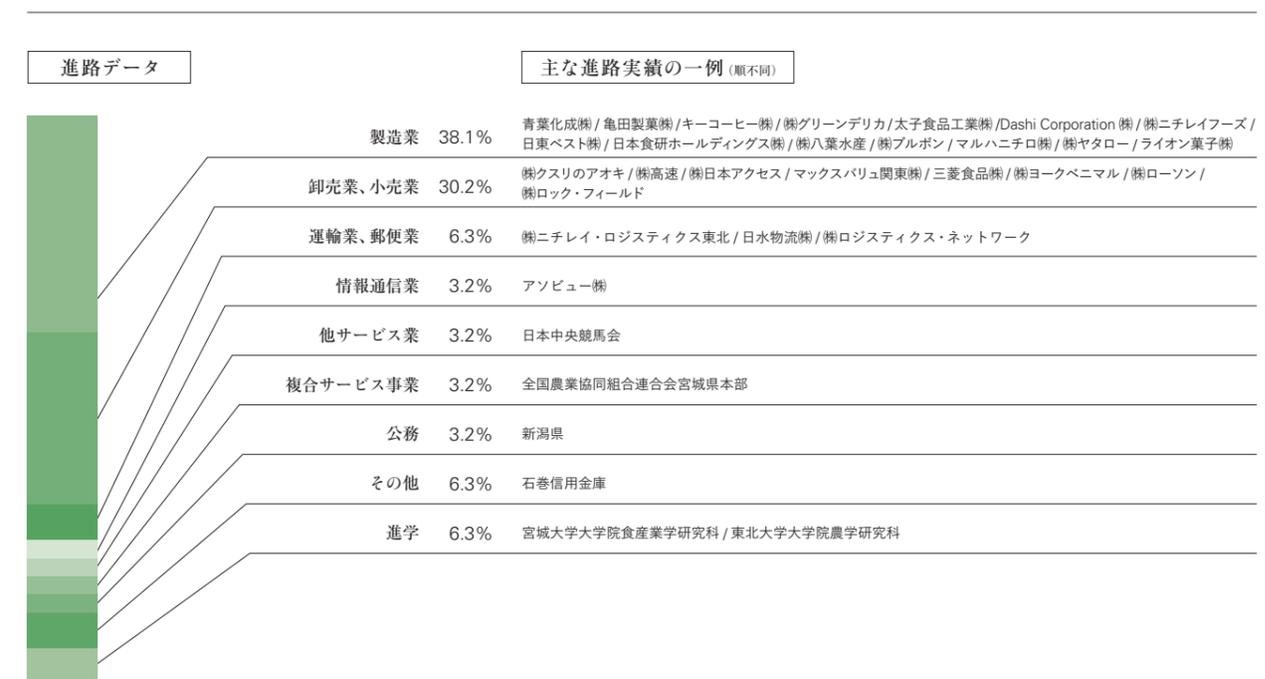
ゼラチン、コラーゲンペプチドの製造・販売を行う会社で、品質管理・品質保証の業務に携わっています。地元宮城県に根差しながら独自の強みを持つ当社製品は、食用だけでなく医薬用や工業用でも使用されており、お客様からの問い合わせや書類作成は多岐にわたります。工場の衛生管理から品質保証まで、社内外のさまざまな分野の方々とコミュニケーションを取りながら理解を深められることにやりがいを感じています。宮城大学ではさまざまな方面から“食”について学ぶことができます。初めは学べる分野の幅広さに戸惑いましたが、それが“食”を広い視野で捉える土台となり、興味ある分野をより深く追求する機会にもなりました。食品衛生や原料調達から販売までの一連の流れを学んだ経験は、現在の品質管理業務に直結しています。今後は査察・監査への対応機会が増えるため、さらなる知識の向上を目指しています。



Graduates [卒業生の活躍]

フードマネジメント学類

進路データ



進路データは、2025年3月31日現在 小数点以下第2位を四捨五入

国際交流・海外ネットワーク

PUSH, PULL, and GROW.

国際交流は、①学生を海外の多文化空間に (PUSH)、②留学生・多文化空間を宮城大学に (PULL)、そして、③海外だけでなく日本のキャンパスでも多文化理解力を醸成する (GROW)、これらをコンセプトに学生が教職員とともに「ワクワク感」をもってグローバル・ステージで活躍できるよう国際交流を進めています。このように、宮城大学では、協定校をはじめとした海外留学、海外からの留学生の受け入れ、キャンパス内に設置したグローバルコモンズでの多文化交流などを通して、1年中「グローバル」を体験することができます。



主な国際交流・海外学修プログラム



宮城大学海外交換留学支援プログラム

トゥルク応用科学大学 (フィンランド) やカリフォルニア州立大学サンバーナーディーノ校 (米国)、サザンクロス大学 (オーストラリア) など海外協定校で1学期もしくは1年程度、原則として本学での専攻を生かした教育プログラムを履修することができます。英語コミュニケーションスキルの向上のみならず、現地の文化や習慣、専攻分野での知見を深め、将来グローバル・ステージで活躍できる有能な人的資源として必要な能力を獲得することを目指します。



リアル・アジア

マレーシア、オーストラリア等で約2週間、協定校大学などにおいて、英語・文化研修を実施するほか、現地企業 / 組織訪問を行います。単なる英会話ではなく、英語を通して現地の社会経済状況を学修し、PBL (問題解決型学習) の手法なども活用しながら実践的なプログラムを構築しています。この短期研修を体験することで、社会でも通用する積極性や協調性、グローバルコミュニケーション能力などを養います。

大学院 Graduate School

学びをさらに深め、高度な研究能力を養う充実した環境があります。

	看護学研究科	事業構想学研究科	食産業学研究科
博士前期課程	看護学専攻 研究能力養成コース 専門看護師養成コース	事業構想学専攻 ビジネスデザイン領域 ソーシャルデザイン領域 空間デザイン領域 情報デザイン領域	食産業学専攻 食品イノベーション領域 食品ビジネスマネジメント分野 / 食品技術開発分野 農・環境イノベーション領域 生物生産分野 / 生産環境分野
博士後期課程	看護学専攻 生涯健康支援看護学分野	事業構想学専攻 ビジネスデザイン系 ソーシャルデザイン系 空間デザイン系 情報デザイン系	食産業学専攻 食品研究領域 農・環境研究領域

学生数

学群	学類	1年	2年	3年	4年	合計
看護学群	看護学類	97	102	110	93	402
事業構想学群	学類未配属者	184				184
	事業プランニング学類	11	68	62	69	210
	地域創生学類	11	69	61	64	205
	価値創造デザイン学類	10	93	80	89	272
食産業学群	学類未配属者	121				121
	食資源開発学類	0	3	8	64	75
	フードマネジメント学類	12	66	73	65	216
	生物生産学類	8	66	63	137	
						合計 1,822

大学院	課程	1年	2年	3年	合計
看護学研究科	博士前期課程	7	5	-	12
	博士後期課程	1	2	3	6
事業構想学研究科	博士前期課程	15	8	-	23
	博士後期課程	3	2	5	10
食産業学研究科	博士前期課程	9	16	-	25
	博士後期課程	2	1	3	6
					合計 82

※2024年度学校基本調査から学群生・大学院生を抜粋

入学金・学費・奨学金

学費・入学時における学生諸経費(2025年度実績)

入学金	県内出身者 県外出身者	282,000円 564,000円
入学時 学生諸経費	看護学群 事業構想学群 食産業学群 ※研究科(保険料のみ)	69,092円 46,160円 46,160円 2,430円~13,500円
授業料	年額 納付時期	535,800円 (前期・後期、半額ずつ納付) [前期] 5月31日 [後期] 11月30日

授業料の減免等制度(2025年度時点)

減免 (本学独自制度)	一定基準以上の成績及び経済的要件を満たす場合、申請により、全額又は半額免除される場合があります。なお、申請条件を設けておりますので、すべての学生が対象とはなりません。
分割納付	経済的理由で授業料の一括納付が困難な場合、申請により、分割納付を認める場合があります。
納付猶予	経済的理由で授業料を指定納期までに納付することが困難な場合、申請により、納付猶予を認める場合があります。

宮城大学は、高等教育の修学支援新制度の対象校です。
【高等教育の修学支援新制度: <https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>】

奨学金制度 (独立行政法人日本学生支援機構奨学金)

**独立行政法人
日本学生支援機構
奨学金**
高校等での予約採用以外は、毎年4月に説明会を行い、奨学生を募集します。貸与金額等の詳細は、日本学生支援機構Webサイトをご確認ください。

日本学生支援機構Webサイト
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>



※貸与期間:採用年度から標準修業年まで。

その他の奨学金 各種団体等の奨学金は、随時学内掲示板等でお知らせします。

大和キャンパス

大和キャンパスは、自然と共生し、地域に開かれた大学としてデザインされました。人が自然とふれあう泉パークタウンと、県内有数の工業エリアである大和リサーチパークに隣接しています。近隣には、県立図書館や産業技術総合センターなどの施設もあり、研究に最適な環境です。



①本部棟 ②ブリッジ棟 ③エントランス広場 ④交流棟 ⑤体育館 ⑥サークル室棟 ⑦材料実験棟 ⑧グラウンド ⑨北側駐車場 ⑩デザイン研究棟

太白キャンパス

太白キャンパスは、太白山山麓の住宅街に位置し、学内農場である旗立農場を擁する自然豊かなキャンパスです。近隣の附属坪沼農場を含めた個性豊かな教育施設群の中で、様々な視点から「食」を学ぶことができます。



①体育館 ②多目的グラウンド ③レストラン棟 ④南サークル棟 ⑤北サークル棟 ⑥動物代謝棟 ⑦動物実験棟 ⑧駐車場 ⑨管理棟 ⑩学生会館メモリアルホール40 ⑪多目的ホール ⑫講義棟 ⑬ガラス温室 ⑭グラウンド ⑮実験棟 ⑯南研究棟 ⑰北研究棟 ⑱食品加工棟 ⑲水利実験棟 ⑳リサイクル棟 ㉑材料実験棟 ㉒水産実験棟



OPEN CAMPUS 2025

MYU OPEN CAMPUS 2025

7/20 太白キャンパス 食産業学群
7/27 大和キャンパス 看護学群・事業構想学群

※日程や開催方法に変更がある場合、本学Webサイトでお知らせします。追加コンテンツも順次公開していきます。



大和キャンパス

大学本部/看護学群/事業構想学群
大学院看護学研究科/大学院事業構想学研究科

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
宮城大学事務局(大学全般) Tel 022-377-8205 (代表) Fax 022-377-8282

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約15分、「泉中央駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「泉中央駅」バスプール3番又は6番から、宮城交通バス「泉パークタウン」行き(宮城大学経由)で約30分~35分、「宮城大学・仙台総合医療大学校前」下車

「仙台駅前」バスプール2番から、宮城交通バス「宮城大学」行き約50分、「宮城大学・仙台総合医療大学校前」下車

太白キャンパス

食産業学群/大学院食産業学研究科

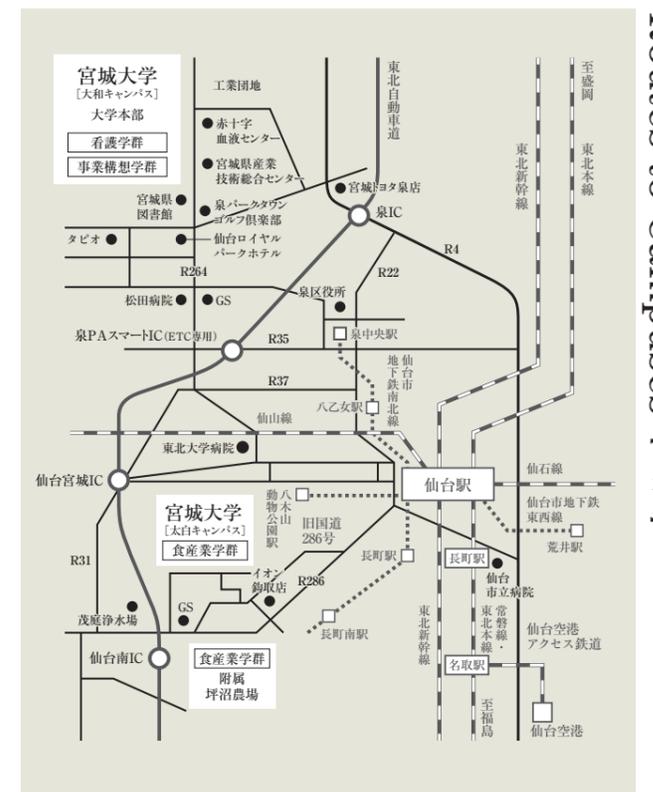
〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立二丁目2番1号
宮城大学事務局(太白事務室) Tel 022-245-2211 (代表) Fax 022-245-1534

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約10分、「長町南駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「長町南駅・太白区役所前」バスプール4番から、宮城交通バス「日本平」行き、「仙台南ニュータウン」行き、「茂庭台」行きで約20分、「宮城大学太白キャンパス前」下車

「仙台駅前」バスプール7番から、宮城交通バス「日本平」行き又は「仙台南ニュータウン」行きで約40分、「宮城大学太白キャンパス前」下車

宮城大学 大学案内 2026
企画・編集: 宮城大学 広報ワーキンググループ/デザイン: 株式会社フロット
撮影: 渡辺然・布施果歩 (Strobelight)、佐藤早苗
印刷: 株式会社フロット



Routes to Campuses (アクセス)



宮城大学大学案内「MYU GUIDE」を含めた、「宮城大学広報ツールのトータルデザイン」は、2021年度グッドデザイン賞を受賞しました。





宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY